

令和6（2024）年度 倉吉市男女共同参画に関する市民意識調査

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識等を的確に把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査の期間

令和6年11月8日（金）～12月10日（火）

3 調査の方法

- ①調査対象 倉吉市内に在住する18歳以上の市民（準世帯を除く）
- ②調査地域 倉吉市内全域
- ③対象者 2,000人
- ④抽出方法 住民基本台帳から無作為に、男女・年齢・地区別に抽出
- ⑤調査方法 郵送法

4 回収結果

発送数 2,000 人

有効回答数 802 人

有効回答率※ 40.1%

※有効回答数÷発送数×100

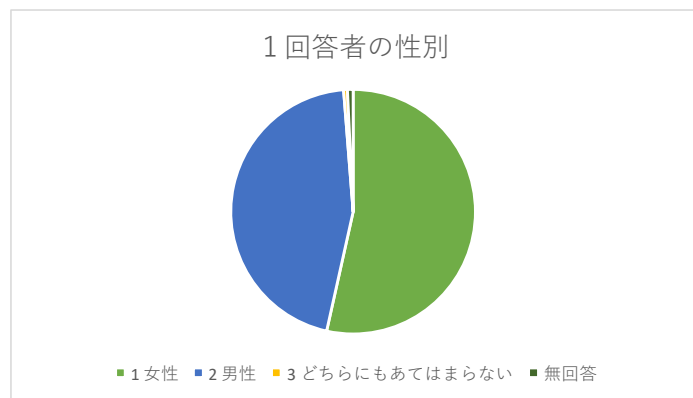
5 その他

集計については、無回答、不明を除いて集計を行った。

回答者の属性

1 あなたの性別

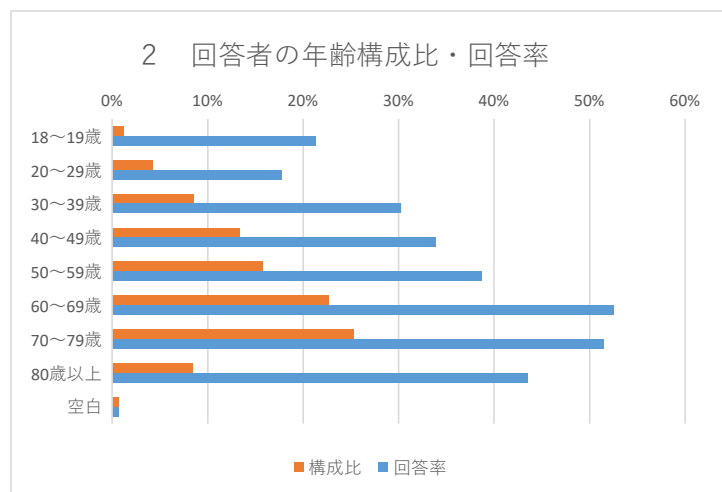
区分	回答数	構成比
女性	429	53.5%
男性	363	45.3%
どちらにもあてはまらない	4	0.5%
無回答	6	0.7%
計	802	100.0%



2 あなたの年齢

区分	対象者	回答件数	回答率	回答者の構成比
18～19歳	47	10	21.3%	1.2%
20～29歳	192	34	17.7%	4.2%
30～39歳	225	68	30.2%	8.5%
40～49歳	316	107	33.9%	13.3%
50～59歳	326	126	38.7%	15.7%
60～69歳	345	181	52.5%	22.6%
70～79歳	395	203	51.4%	25.3%
80歳以上	154	67	43.5%	8.4%
無回答		6		0.7%
計	2,000	802	40.1%	100.0%

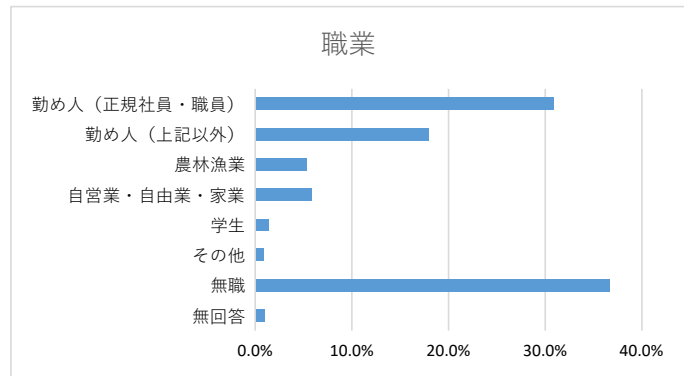
回答者の年齢は70代、60代、50代の順に多い。
対象者数に対する回答件数（回答率）は、高い順から60代、70代、80歳以上となっている。



3 あなたの職業

区分	件数	構成比
勤め人（正規社員・職員）	248	30.9%
勤め人（上記以外）	144	18.0%
農林漁業	43	5.4%
自営業・自由業・家業	47	5.9%
学生	11	1.4%
その他	7	0.9%
無職	294	36.7%
無回答	8	1.0%
計	802	100.0%

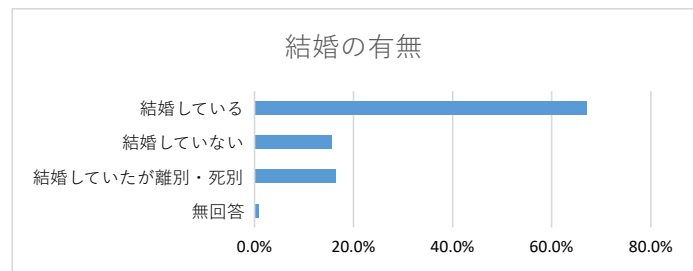
職業別では、多い順から「無職」、「勤め人(正規社員・職員)」となっている。



4 あなたは結婚をされていますか

区分	件数	構成比
結婚している	538	67.1%
結婚していない	126	15.7%
結婚していたが離別・死別	131	16.3%
無回答	7	0.9%
計	802	100.0%

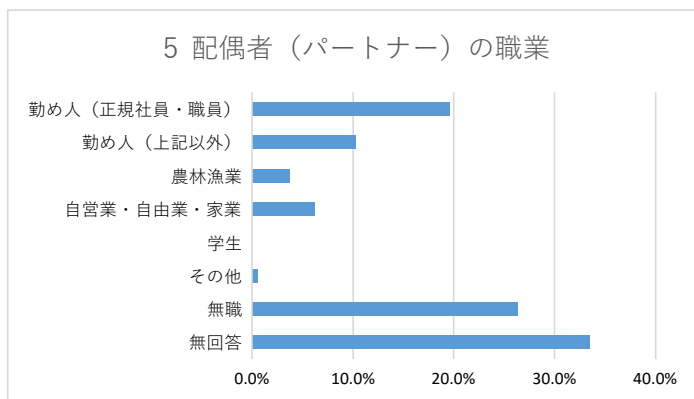
回答者の67.1%が「結婚している」と答えている。



5 配偶者（パートナー）の職業

区分	件数	構成比
勤め人（正規社員・職員）	157	19.6%
勤め人（上記以外）	82	10.2%
農林漁業	30	3.7%
自営業・自由業・家業	50	6.2%
学生	0	0.0%
その他	4	0.5%
無職	211	26.3%
無回答	268	33.4%
計	802	100.0%

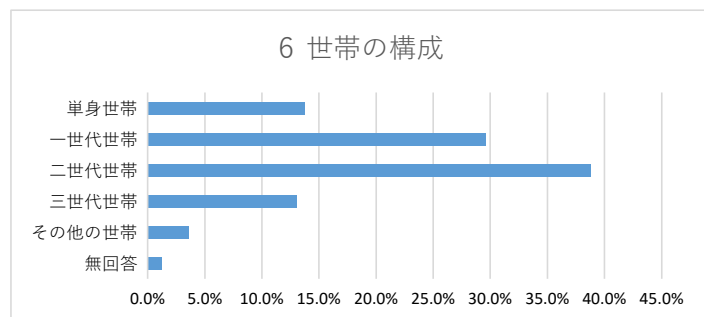
回答者の配偶者(パートナー)の職業は、無回答を除き、多い順から、無職26.3%、勤め人(正規社員・職員)19.6%となっている。



6 世帯の構成

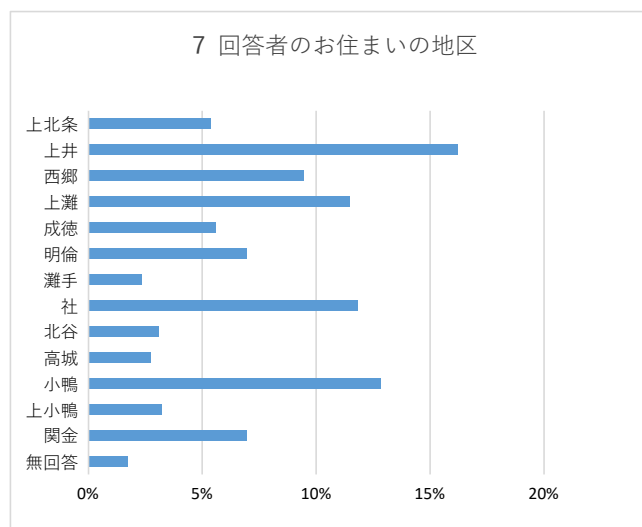
区分	件数	構成比
単身世帯	110	13.7%
一世代世帯	237	29.6%
二世代世帯	311	38.8%
三世代世帯	105	13.1%
その他の世帯	29	3.6%
無回答	10	1.2%
計	802	100.0%

回答者の世帯構成は、多い順から、二世代世帯38.8%、一世代世帯29.6%、単身世帯13.7%となっている。



7 お住まいの地区

区分	対象者	有効回答者数	回収率	回答者の構成比	対象者の構成比
上北条	104	43	41.3%	5.4%	5.2%
上井	308	130	42.2%	16.2%	15.4%
西郷	213	76	35.7%	9.5%	10.7%
上灘	238	92	38.7%	11.5%	11.9%
成徳	119	45	37.8%	5.6%	6.0%
明倫	141	56	39.7%	7.0%	7.1%
社	232	95	40.9%	11.8%	11.6%
高城	81	22	27.2%	2.7%	4.1%
北谷	53	25	47.2%	3.1%	2.7%
灘手	38	19	50.0%	2.4%	1.9%
小鴨	269	103	38.3%	12.8%	13.5%
上小鴨	65	26	40.0%	3.2%	3.3%
関金	139	56	40.3%	7.0%	7.0%
無回答		14		1.7%	
計	2,000	802		100.0%	100.0%



1 男女共同参画・男女平等について

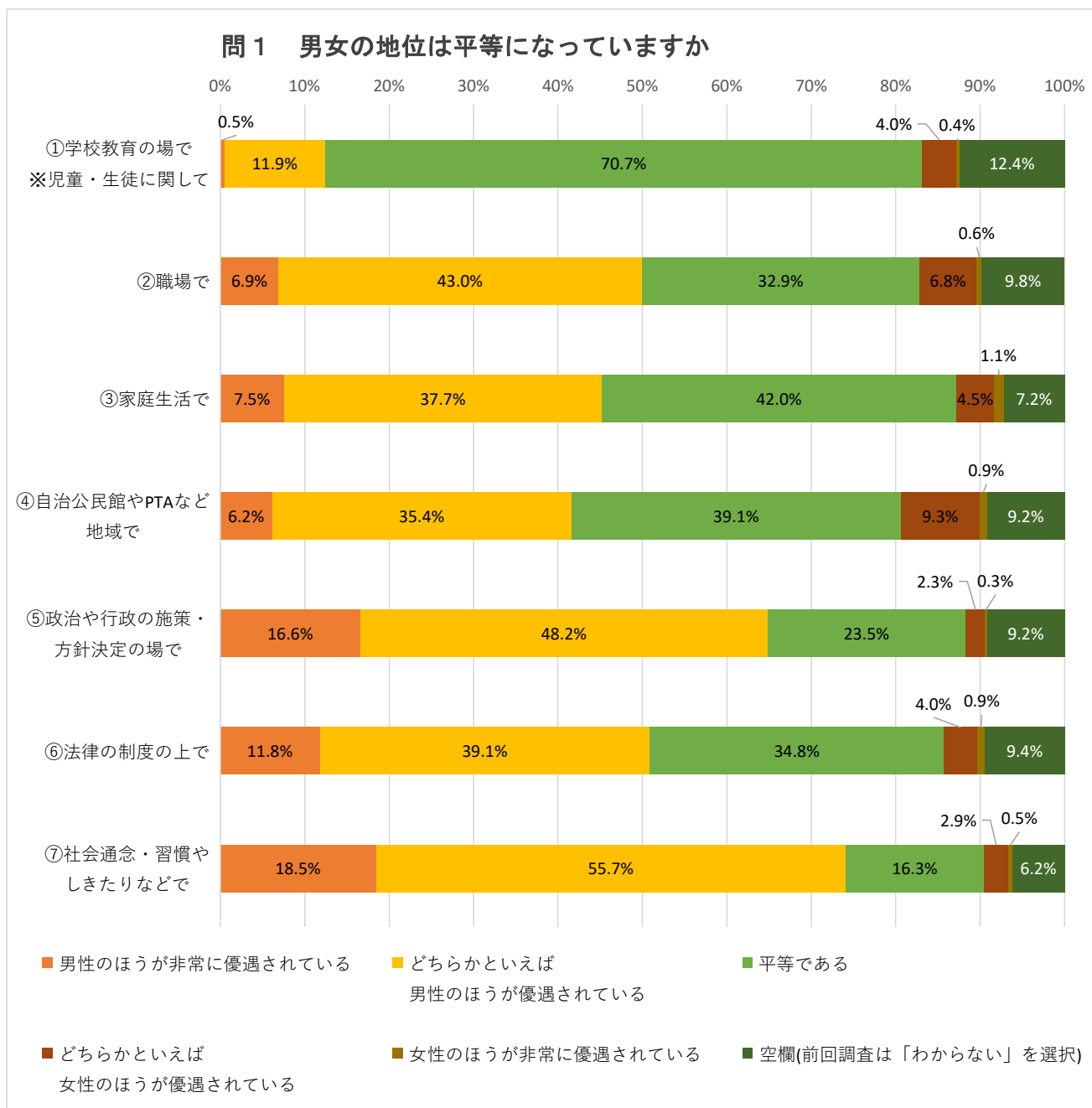
問1 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

各分野における男女の地位の平等感について、「①学校教育の場※児童・生徒に関して」では**70.7%**(前回52.6%、前回は「※児童・生徒に関して」の記述なし)の人が「平等である」と答えている。次いで、「③家庭生活で」**42.0%**(前回39.5%)、「④自治公民館やPTAなど地域で」**39.1%**(前回30.0%)と続いている。

一方、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた『男性優遇』と答えた人は、「⑦社会通念・習慣やしきたりなどで」**74.2%**(前回76.8%)、「⑤政治や行政の施策・方針決定の場で」**64.8%**(前回65.4%)、「⑥法律や制度の上で」**50.9%**(前回45.0%)、「②職場で」**49.9%**(前回55.6%)と続いている。

※()内の「前回」は、「令和2年度倉吉市男女共同参画に関する市民意識調査」のこと。以下、同じ。

【単純集計】



① 学校教育の場で ※児童・生徒に関して

【男女別集計】

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	0	0.0%	4	1.1%	4	0.5%	10	1.3%
どちらかといえば男性が優遇されている	54	12.6%	39	10.7%	93	11.7%	155	20.2%
平等である	288	67.1%	273	75.2%	561	70.8%	403	52.6%
どちらかといえば女性が優遇されている	15	3.5%	17	4.7%	32	4.0%	16	2.1%
女性が非常に優遇されている	2	0.5%	1	0.3%	3	0.4%	2	0.3%
空欄(前回調査では「わからない」)	70	16.3%	29	8.0%	99	12.5%	180	23.5%
n =	429		363		792		766	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%
どちらかといえば男性が優遇されている	10.0%	11.8%	10.3%	9.3%	9.5%	14.4%	12.3%	14.9%
平等である	70.0%	67.6%	86.8%	77.6%	77.8%	69.6%	63.5%	55.2%
どちらかといえば女性が優遇されている	10.0%	11.8%	2.9%	7.5%	5.6%	1.7%	2.0%	4.5%
女性が非常に優遇されている	0.0%	2.9%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	5.9%	0.0%	2.8%	5.6%	13.8%	22.2%	25.4%

② 職場で

【男女別集計】

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	38	8.9%	16	4.4%	54	6.8%	88	11.4%
どちらかといえば男性が優遇されている	172	40.1%	167	46.0%	339	42.8%	341	44.2%
平等である	139	32.4%	123	33.9%	262	33.1%	212	27.5%
どちらかといえば女性が優遇されている	25	5.8%	29	8.0%	54	6.8%	36	4.7%
女性が非常に優遇されている	1	0.2%	4	1.1%	5	0.6%	5	0.6%
空欄(前回調査では「わからない」)	54	12.6%	24	6.6%	78	9.8%	90	11.7%
n =	429		363		792		772	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	10.0%	2.9%	2.9%	9.3%	6.3%	7.7%	6.9%	7.5%
どちらかといえば男性が優遇されている	20.0%	23.5%	38.2%	40.2%	37.3%	47.5%	48.8%	46.3%
平等である	60.0%	50.0%	47.1%	37.4%	43.7%	29.8%	20.7%	22.4%
どちらかといえば女性が優遇されている	0.0%	17.6%	8.8%	9.3%	11.9%	6.1%	3.0%	0.0%
女性が非常に優遇されている	0.0%	2.9%	1.5%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	2.9%	1.5%	1.9%	0.8%	8.8%	20.7%	22.4%

③ 家庭生活で

【男女別集計】

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	50	11.7%	9	2.5%	59	7.4%	73	9.5%
どちらかといえば男性が優遇されている	171	39.9%	126	34.7%	297	37.5%	294	38.2%
平等である	156	36.4%	178	49.0%	334	42.2%	304	39.5%
どちらかといえば女性が優遇されている	12	2.8%	24	6.6%	36	4.5%	32	4.2%
女性が非常に優遇されている	2	0.5%	7	1.9%	9	1.1%	5	0.6%
空欄(前回調査では「わからない」)	38	8.9%	19	5.2%	57	7.2%	62	8.1%
n =	429		363		792		770	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	0.0%	2.9%	2.9%	8.4%	14.3%	7.7%	5.9%	6.0%
どちらかといえば男性が優遇されている	20.0%	20.6%	41.2%	35.5%	31.0%	43.1%	41.9%	32.8%
平等である	70.0%	58.8%	47.1%	44.9%	48.4%	37.6%	35.5%	38.8%
どちらかといえば女性が優遇されている	0.0%	11.8%	4.4%	6.5%	1.6%	4.4%	4.9%	3.0%
女性が非常に優遇されている	10.0%	2.9%	2.9%	1.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
空欄(前回調査では「わからない」)	0.0%	2.9%	1.5%	2.8%	2.4%	7.2%	11.8%	19.4%

④ 自治公民館やPTAなど地域の場合

【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	32	7.5%	17	4.7%	49	6.2%	66	8.7%
どちらかといえば男性が優遇されている	154	35.9%	124	34.2%	278	35.1%	288	37.7%
平等である	160	37.3%	151	41.6%	311	39.3%	229	30.0%
どちらかといえば女性が優遇されている	33	7.7%	41	11.3%	74	9.3%	39	5.1%
女性が非常に優遇されている	1	0.2%	6	1.7%	7	0.9%	7	0.9%
空欄(前回調査では「わからない」)	49	11.4%	24	6.6%	73	9.2%	134	17.6%
n=	429		363		792		763	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	10.0%	5.9%	1.5%	7.5%	9.5%	3.9%	5.4%	10.4%
どちらかといえば男性が優遇されている	30.0%	29.4%	36.8%	39.3%	26.2%	41.4%	37.9%	25.4%
平等である	50.0%	29.4%	45.6%	42.1%	44.4%	35.4%	36.0%	38.8%
どちらかといえば女性が優遇されている	0.0%	14.7%	7.4%	6.5%	15.1%	11.0%	7.4%	4.5%
女性が非常に優遇されている	0.0%	2.9%	4.4%	0.9%	0.8%	0.0%	0.5%	0.0%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	17.6%	4.4%	3.7%	4.0%	8.3%	12.8%	20.9%

⑤政治や行政の施策・方針決定の場合

【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	91	21.2%	39	10.7%	130	16.4%	181	23.5%
どちらかといえば男性が優遇されている	206	48.0%	176	48.5%	382	48.2%	323	41.9%
平等である	69	16.1%	118	32.5%	187	23.6%	123	16.0%
どちらかといえば女性が優遇されている	8	1.9%	10	2.8%	18	2.3%	13	1.7%
女性が非常に優遇されている	1	0.2%	1	0.3%	2	0.3%	2	0.3%
空欄(前回調査では「わからない」)	54	12.6%	19	5.2%	73	9.2%	128	16.6%
n=	429		363		792		770	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	20.0%	20.6%	20.6%	18.7%	20.6%	18.8%	8.9%	16.4%
どちらかといえば男性が優遇されている	40.0%	35.3%	42.6%	47.7%	40.5%	58.6%	51.7%	37.3%
平等である	30.0%	29.4%	30.9%	29.0%	30.2%	11.0%	21.7%	29.9%
どちらかといえば女性が優遇されている	0.0%	5.9%	2.9%	0.0%	5.6%	2.2%	1.5%	0.0%
女性が非常に優遇されている	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	8.8%	1.5%	4.7%	3.2%	8.8%	16.3%	16.4%

⑥ 法律や制度の上で

【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	70	16.3%	22	6.1%	92	11.6%	97	12.6%
どちらかといえば男性が優遇されている	181	42.2%	128	35.3%	309	39.0%	250	32.4%
平等である	112	26.1%	165	45.5%	277	35.0%	252	32.6%
どちらかといえば女性が優遇されている	11	2.6%	21	5.8%	32	4.0%	19	2.5%
女性が非常に優遇されている	2	0.5%	5	1.4%	7	0.9%	5	0.6%
空欄(前回調査では「わからない」)	53	12.4%	22	6.1%	75	9.5%	149	19.3%
n=	429		363		792		772	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	20.0%	17.6%	13.2%	13.1%	14.3%	14.9%	5.9%	9.0%
どちらかといえば男性が優遇されている	30.0%	29.4%	25.0%	46.7%	38.9%	47.0%	37.9%	28.4%
平等である	40.0%	26.5%	48.5%	33.6%	34.9%	27.6%	37.9%	35.8%
どちらかといえば女性が優遇されている	0.0%	14.7%	8.8%	0.9%	7.1%	2.8%	3.0%	0.0%
女性が非常に優遇されている	0.0%	2.9%	2.9%	0.9%	1.6%	0.0%	0.0%	1.5%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	8.8%	1.5%	4.7%	3.2%	7.7%	15.3%	25.4%

⑦ 社会通念・習慣やしきたりなどで

【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性が非常に優遇されている	103	24.0%	41	11.3%	144	18.2%	185	23.8%
どちらかといえば男性が優遇されている	233	54.3%	209	57.6%	442	55.8%	412	53.0%
平等である	52	12.1%	78	21.5%	130	16.4%	71	9.1%
どちらかといえば女性が優遇されている	6	1.4%	17	4.7%	23	2.9%	16	2.1%
女性が非常に優遇されている	1	0.2%	3	0.8%	4	0.5%	3	0.4%
空欄(前回調査では「わからない」)	34	7.9%	15	4.1%	49	6.2%	90	11.6%
n =	429		363		792		777	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
男性が非常に優遇されている	0.0%	11.8%	20.6%	23.4%	24.6%	21.0%	13.3%	11.9%
どちらかといえば男性が優遇されている	40.0%	44.1%	45.6%	48.6%	54.8%	63.5%	59.1%	53.7%
平等である	40.0%	32.4%	23.5%	19.6%	13.5%	8.8%	16.7%	16.4%
どちらかといえば女性が優遇されている	10.0%	5.9%	4.4%	3.7%	5.6%	1.7%	1.5%	0.0%
女性が非常に優遇されている	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
空欄(前回調査では「わからない」)	10.0%	5.9%	0.0%	4.7%	1.6%	5.0%	9.4%	17.9%

問2 あなたは、男女が平等な立場で協力しあうまたは様々な活動に参画するためにはどんなことが大切だと思いますか。
(複数回答可)

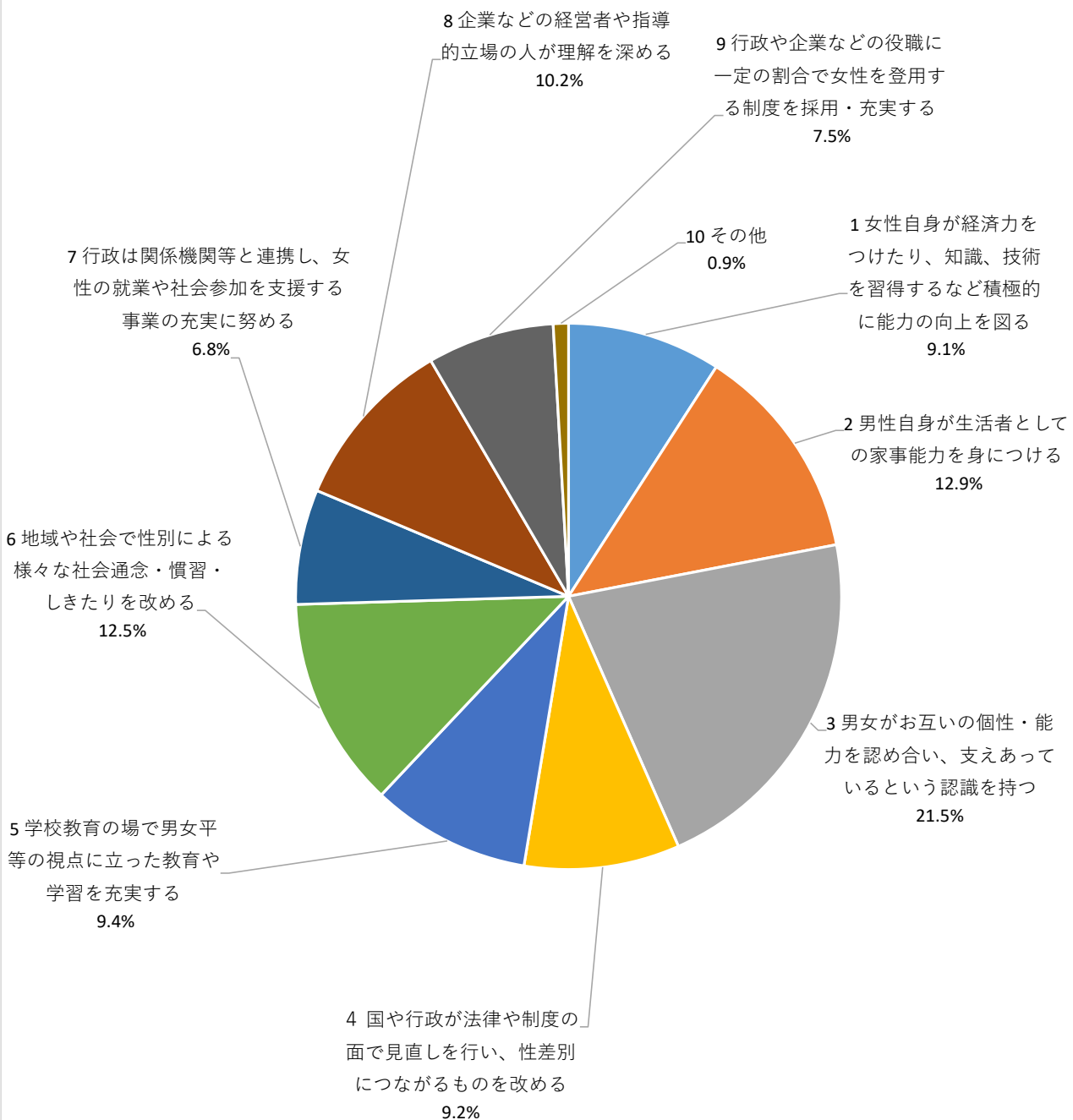
多い順に、「3 男女がお互いの個性・能力を認め合い、支え合っているという認識を持つ」が**21.5%**(前回36.1%)、「2 男性自身が生活者としての家事能力を身につける」**12.9%**(前回24.5%)、「6 地域や社会で性別による様々な社会通念・慣習・しきたりを改める」**12.5%**(前回9.1%)、「8 企業などの経営者や指導的立場の人が理解を深める」が**10.2%**(前回6.1%)、「5 学校教育の場で男女平等の視点に立った教育や学習を充実する」が**9.4%**(前回6.4%)、「4 国や行政が法律や制度の面で見直しを行い、性差別につながるものを改める」が**9.2%**(前回3.8%)、「1 女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る」が**9.1%**(前回7.5%)となっている。

法律や制度面の改正がなされていることから、前回調査と選択肢の選択数の変更はあったものの前回調査結果と同様に意識改革に伴う行動の変化が引き続き求められている。

※前回調査までは選択を3つまでとしていたが、今回は複数選択可とした。また選択肢を14から10に減らしている。

【単純集計】

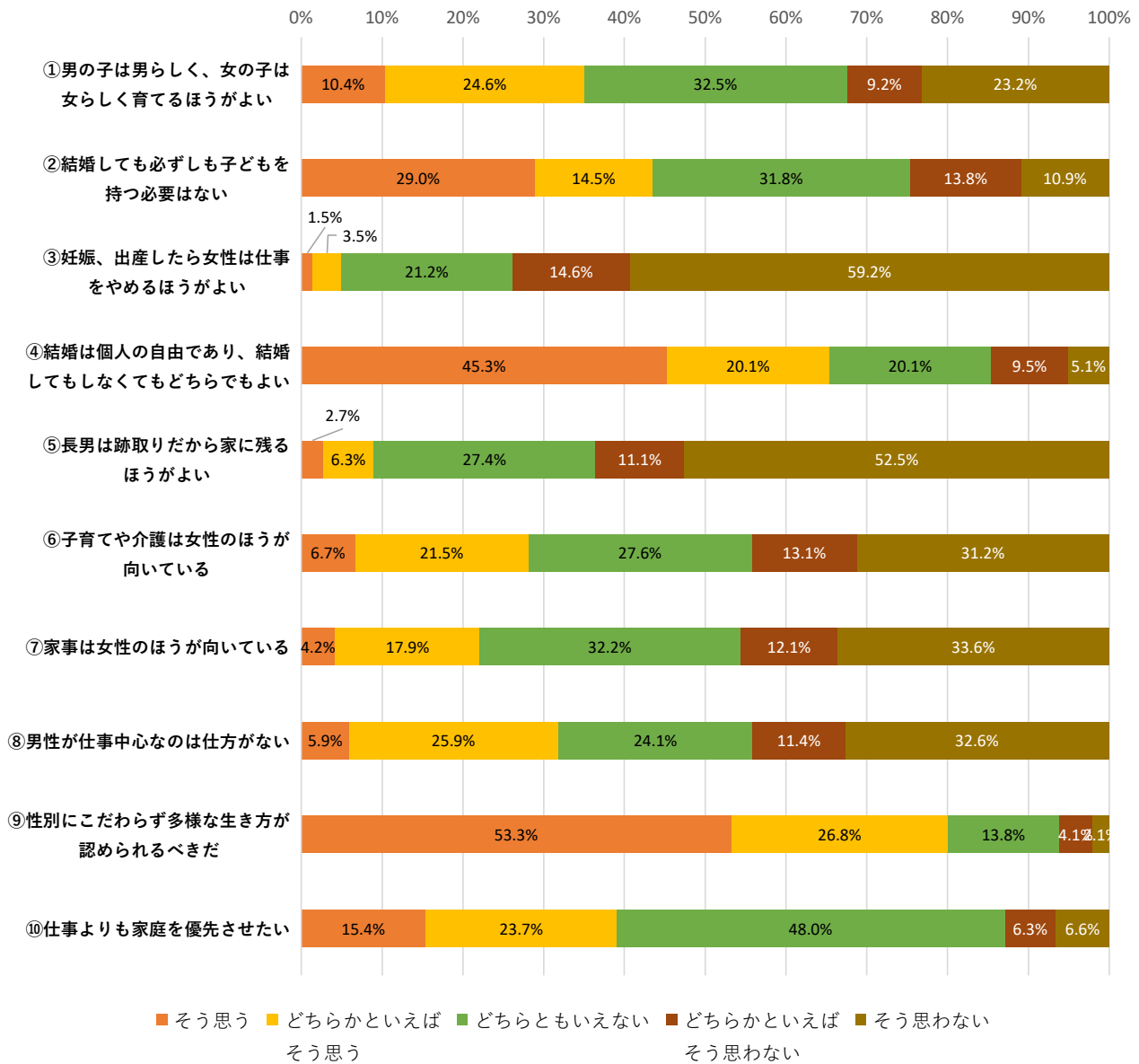
問2 男女が平等な立場で協力しあうまたは様々な活動に参画するためにはどんなことが大切だと思いますか



問3 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

【単純集計】

問3 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか



①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい

【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	16	3.9%	63	18.2%	79	10.5%	61	7.8%
どちらかといえばそう思う	76	18.6%	111	32.0%	187	24.8%	178	22.8%
どちらともいえない	152	37.3%	94	27.1%	246	32.6%	229	29.3%
どちらかといえばそう思わない	53	13.0%	17	4.9%	70	9.3%	97	12.4%
そう思わない	111	27.2%	62	17.9%	173	22.9%	216	27.7%
n=	408		347		755		781	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	20.0%	3.0%	10.3%	12.4%	7.4%	9.1%	9.1%	24.1%
どちらかといえばそう思う	10.0%	12.1%	27.9%	12.4%	24.6%	26.1%	28.0%	37.9%
どちらともいえない	10.0%	18.2%	29.4%	39.0%	32.8%	32.4%	36.0%	24.1%
どちらかといえばそう思わない	20.0%	18.2%	7.4%	7.6%	10.7%	8.0%	10.8%	3.4%
そう思わない	40.0%	48.5%	25.0%	28.6%	24.6%	24.4%	16.1%	10.3%

「①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では、否定的回答は**32.2%**(前回40.1%)、「どちらともいえない」が**32.6%**(前回29.3%)、肯定的回答は**35.3%**(前回30.6%)、となっている。否定的回答が前回より7.9ポイント減少。

否定的回答は、男女別では17.4ポイント女性が高く、年齢別では18～19歳と20代が50%以上の割合(前回は18～19歳と30代が50%以上)。

肯定的回答においては、80歳以上は62.0%、18～19歳、50代、60代、70代は30%台、40代が20%台、20代が10%台の割合となっている。

②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	128	31.2%	89	25.5%	217	28.6%	185	23.6%
どちらかといえばそう思う	60	14.6%	51	14.6%	111	14.6%	84	10.7%
どちらともいえない	144	35.1%	99	28.4%	243	32.0%	254	32.4%
どちらかといえばそう思わない	41	10.0%	64	18.3%	105	13.8%	110	14.0%
そう思わない	37	9.0%	46	13.2%	83	10.9%	150	19.2%
n=	410		349		759		783	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	60.0%	69.7%	50.0%	46.7%	31.1%	20.5%	14.3%	13.6%
どちらかといえばそう思う	20.0%	15.2%	16.2%	7.6%	21.3%	14.8%	14.3%	8.5%
どちらともいえない	20.0%	9.1%	19.1%	28.6%	28.7%	37.5%	39.2%	33.9%
どちらかといえばそう思わない	0.0%	3.0%	8.8%	14.3%	13.1%	14.8%	16.9%	15.3%
そう思わない	0.0%	3.0%	5.9%	2.9%	5.7%	12.5%	15.3%	28.8%

「②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」では、否定的回答は**24.7%**(前回33.2%)、「どちらともいえない」が**32.0%**(前回32.4%)、肯定的回答は**43.2%**(前回34.3%)、となっている。肯定的回答が前回より8.9ポイント増加。

男女別では、肯定的回答では女性**45.8%**、男性**40.1%**と女性が5.7ポイント男性より高い。否定的回答は女性**19.0%**、男性**31.5%**と男性が12.5ポイント高くなっている。

年齢別では、20代から50代にかけて肯定的回答が50%以上で、60代以上では「どちらともいえない」が30%台。前回調査では70代以上は否定的回答が50%、50代、60代はどちらとも言えないが40%以上であったのに対し、否定的な考えの人が減少している。

③妊娠、出産したら女性は仕事をやめるほうがよい

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	2	0.5%	9	2.6%	11	1.5%	5	0.6%
どちらかといえばそう思う	12	3.0%	14	4.0%	26	3.5%	22	2.8%
どちらともいえない	73	18.3%	86	24.5%	159	21.2%	166	21.3%
どちらかといえばそう思わない	51	12.8%	59	16.8%	110	14.7%	124	15.9%
そう思わない	260	65.3%	183	52.1%	443	59.1%	463	59.4%
n =		398	351	749	780			

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	0.0%	0.0%	1.5%	1.0%	0.8%	1.7%	0.5%	6.9%
どちらかといえばそう思う	0.0%	3.0%	3.0%	1.9%	4.1%	2.9%	3.3%	8.6%
どちらともいえない	40.0%	3.0%	20.9%	16.2%	23.8%	17.2%	26.2%	27.6%
どちらかといえばそう思わない	20.0%	12.1%	6.0%	11.4%	14.8%	17.2%	18.6%	10.3%
そう思わない	40.0%	81.8%	68.7%	69.5%	56.6%	60.9%	51.4%	46.6%

「③妊娠、出産したら女性は仕事をやめるほうがよい」では、否定的回答は**73.8%**（前回75.3%）、「どちらともいえない」は**21.2%**（前回21.3%）、肯定的回答は、**5.0%**（前回3.4%）となっており前回調査とほぼ同じ状態。

男女別では、ほぼ差はないが、否定的回答は女性のほうが9.2ポイント高い。

年齢別では、全ての年代において否定的回答が高いが、前は年代が高くなるにつれて低くなっていたのに比較して、最も高かった18～19歳が**60%**（前回83.3%）となっており、80歳以上の次に否定的回答の割合が低く、70代よりも低くなっている。

④結婚は個人の自由であり、結婚しなくてもどちらでもよい

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	206	49.8%	139	39.6%	345	45.1%	339	43.1%
どちらかといえばそう思う	87	21.0%	67	19.1%	154	20.1%	118	15.0%
どちらともいえない	82	19.8%	72	20.5%	154	20.1%	178	22.6%
どちらかといえばそう思わない	23	5.6%	50	14.2%	73	9.5%	87	11.1%
そう思わない	16	3.9%	23	6.6%	39	5.1%	64	8.1%
n =		414	351	765	786			

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	80.0%	90.9%	66.2%	60.6%	48.0%	40.1%	32.3%	16.7%
どちらかといえばそう思う	20.0%	3.0%	20.6%	21.2%	22.8%	19.8%	20.3%	21.7%
どちらともいえない	0.0%	3.0%	8.8%	10.6%	21.1%	22.0%	27.6%	30.0%
どちらかといえばそう思わない	0.0%	0.0%	2.9%	3.8%	7.3%	13.0%	13.5%	15.0%
そう思わない	0.0%	3.0%	1.5%	3.8%	0.8%	5.1%	6.3%	16.7%

「④結婚は個人の自由であり、結婚しなくてもどちらでもよい」では、否定的回答は**14.6%**（前回19.2%）、「どちらともいえない」は**20.1%**（前回22.6%）、肯定的回答は**65.2%**（前回58.1%）となっている。肯定的回答が前回より7.1ポイント増加。

男女別では、肯定的回答は女性**70.8%**、男性**58.7%**と12.1ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別では、肯定的回答が18～19歳で**100%**と最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっている。否定的回答が18～19歳は**0%**、20代から70代までは**10%未満**または**10%台**。前回調査では70代以上から**30%**を超えていたが、今回は80歳以上のみが**30%**を超えている。

⑤長男は跡取りだから家に残るほうがよい

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	6	1.5%	15	4.2%	21	2.8%	18	2.3%
どちらかといえばそう思う	17	4.2%	31	8.8%	48	6.3%	64	8.1%
どちらともいえない	102	24.9%	107	30.2%	209	27.4%	202	25.7%
どちらかといえばそう思わない	44	10.8%	41	11.6%	85	11.1%	102	13.0%
そう思わない	240	58.7%	160	45.2%	400	52.4%	401	51.0%
n =		409	354		763		787	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	0.0%	0.0%	1.5%	2.9%	0.8%	4.0%	3.2%	4.9%
どちらかといえばそう思う	0.0%	6.1%	4.4%	3.8%	8.9%	1.7%	6.9%	19.7%
どちらともいえない	20.0%	6.1%	19.1%	20.0%	27.6%	32.8%	30.2%	37.7%
どちらかといえばそう思わない	10.0%	3.0%	10.3%	8.6%	11.4%	13.0%	14.3%	4.9%
そう思わない	70.0%	84.8%	64.7%	64.8%	51.2%	48.6%	45.5%	32.8%

「⑤長男は跡取りだから家に残るほうがよい」では、否定的回答は63.5% (前回64.0%)、「どちらともいえない」は27.4% (前回25.7%)、肯定的回答は9.1% (前回10.4%)となり、ほぼ同じ割合となっている。

男女別では、肯定的回答で女性5.7%、男性13.0%と7.3ポイント男性のほうが高く、否定的回答は女性69.5%、男性56.8%と12.7ポイント女性が高い。

年齢別では、80歳以上が否定的回答で37.7%と最も低く、高い割合は20代が87.8%、18～19歳が80.0%の順となっている。肯定的回答では18～19歳が0%と最も低く、高い割合は80歳以上24.6%と最も高い。前回調査では80歳以上の回答は否定的回答と肯定的回答がほぼ同割合であったが、今回は肯定的回答の割合が低くなっている。

⑥育児や介護は女性のほうが向いている

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	20	4.9%	31	8.8%	51	6.7%	49	6.3%
どちらかといえばそう思う	61	15.0%	103	29.3%	164	21.6%	211	27.0%
どちらともいえない	104	25.5%	105	29.8%	209	27.5%	232	29.7%
どちらかといえばそう思わない	65	15.9%	35	9.9%	100	13.2%	74	9.5%
そう思わない	158	38.7%	78	22.2%	236	31.1%	215	27.5%
n =		408	352		760		781	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	0.0%	6.1%	4.4%	5.8%	2.4%	6.3%	7.9%	18.6%
どちらかといえばそう思う	20.0%	15.2%	10.3%	20.2%	22.0%	19.3%	26.3%	30.5%
どちらともいえない	50.0%	18.2%	27.9%	22.1%	33.3%	27.8%	26.3%	28.8%
どちらかといえばそう思わない	10.0%	6.1%	13.2%	11.5%	14.6%	17.0%	14.2%	1.7%
そう思わない	20.0%	54.5%	44.1%	40.4%	27.6%	29.5%	25.3%	20.3%

「⑥育児や介護は女性の方が向いている」では、否定的回答は44.3% (前回37.0%)、「どちらともいえない」は27.5% (前回29.7%)、肯定的回答は28.3% (前回33.3%)となっている。否定的回答が前回より7.3ポイント増加。

男女別では、肯定的回答では女性19.9%、男性38.1%と男性が18.2ポイント女性より高い。否定的回答は女性54.6%、男性32.1%と女性が22.5ポイント高く、対照的な結果となっている。

年齢別では、否定的回答で18～19歳が前回調査では75%と最も高かったが今回は30%となっている。80代以上は肯定的回答が40%以上となっており否定的回答の倍の割合になっている。

⑦家事は女性のほうが向いている

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	13	3.2%	19	5.4%	32	4.2%	41	5.3%
どちらかといえばそう思う	47	11.5%	88	25.2%	135	17.8%	165	21.2%
どちらともいえない	120	29.4%	124	35.5%	244	32.2%	264	33.8%
どちらかといえばそう思わない	54	13.2%	38	10.9%	92	12.2%	71	9.1%
そう思わない	174	42.6%	80	22.9%	254	33.6%	239	30.6%
n=	408		349		757		780	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	0.0%	3.0%	4.5%	4.8%	0.8%	4.0%	5.3%	8.5%
どちらかといえばそう思う	10.0%	3.0%	9.0%	18.3%	16.4%	15.8%	23.5%	28.8%
どちらともいえない	70.0%	27.3%	34.3%	24.0%	33.6%	35.6%	31.6%	28.8%
どちらかといえばそう思わない	10.0%	3.0%	6.0%	11.5%	12.3%	15.3%	13.4%	11.9%
そう思わない	10.0%	63.6%	46.3%	41.3%	36.9%	29.4%	26.2%	22.0%

「⑦家事は女性のほうが向いている」では、否定的回答は**45.8%**(前回39.7%)、「どちらともいえない」は**32.2%**(前回33.8%)、肯定的回答は**22.0%**(前回26.5%)となっている。否定的回答が前回より6.1ポイント増加。

男女別では、否定的回答では女性**55.8%**、男性**33.8%**と、女性が22.0ポイント男性より高い。肯定的回答は男性が15.9ポイント高く、対照的な結果となっている。

年齢別では、否定的回答が最も高い20代から年齢が上がるにつれて低くなっている。18～19歳が前回調査では75%と最も高かったが今回は20%となっており、80歳以上よりも少ない割合となっている。ただし、18～19歳は、肯定的回答が10%であり、高いわけではなく「どちらともいえない」が70.0%となっている。

⑧男性が仕事中心なのは仕方がない

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	19	4.7%	26	7.4%	45	6.0%	72	9.2%
どちらかといえばそう思う	91	22.4%	105	30.1%	196	25.9%	187	24.0%
どちらともいえない	82	20.1%	100	28.7%	182	24.1%	208	26.7%
どちらかといえばそう思わない	50	12.3%	37	10.6%	87	11.5%	92	11.8%
そう思わない	165	40.5%	81	23.2%	246	32.5%	220	28.2%
n=	407		349		756		779	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	0.0%	6.1%	9.0%	8.6%	3.3%	3.4%	7.0%	8.5%
どちらかといえばそう思う	20.0%	18.2%	10.4%	24.8%	23.0%	22.7%	31.6%	47.5%
どちらともいえない	40.0%	27.3%	19.4%	16.2%	27.0%	26.1%	26.7%	18.6%
どちらかといえばそう思わない	10.0%	3.0%	17.9%	12.4%	9.0%	19.3%	7.5%	1.7%
そう思わない	30.0%	45.5%	43.3%	38.1%	37.7%	28.4%	27.3%	23.7%

「⑧男性が仕事中心なのは仕方がない」では、否定的回答は**44.0%**(前回40.0%)、「どちらともいえない」は**24.1%**(前回26.7%)、肯定的回答は**31.9%**(前回33.2%)となっている。否定的回答が前回より4.0ポイント増加。

男女別では、否定的回答が女性**52.8%**、男性**33.8%**と19.0ポイント女性が高い。

年齢別では、否定的回答が30代が**61.2%**と最も高く、80歳以上が**25.4%**と最も低い。前回否定的回答率が最も高かった18～19歳は**40.0%**と70代の次に低くなっており、「どちらともいえない」がどの年代よりも高い。肯定的回答は80歳以上が**56.0%**と最も高くなっている。

⑨性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	250	61.0%	153	43.8%	403	53.1%	430	54.8%
どちらかといえばそう思う	96	23.4%	108	30.9%	204	26.9%	211	26.9%
どちらともいえない	42	10.2%	63	18.1%	105	13.8%	106	13.5%
どちらかといえばそう思わない	17	4.1%	14	4.0%	31	4.1%	18	2.3%
そう思わない	5	1.2%	11	3.2%	16	2.1%	20	2.5%
n=	410		349		759		785	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	60.0%	78.8%	67.6%	60.0%	52.8%	49.7%	48.4%	35.1%
どちらかといえばそう思う	10.0%	18.2%	17.6%	23.8%	26.8%	28.2%	31.9%	29.8%
どちらともいえない	20.0%	3.0%	13.2%	13.3%	13.8%	13.0%	13.8%	22.8%
どちらかといえばそう思わない	0.0%	0.0%	1.5%	1.9%	4.1%	5.6%	4.3%	8.8%
そう思わない	10.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.4%	3.4%	1.6%	3.5%

「⑨性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ」では、肯定的回答は**80.0%**(前回81.7%)と前回より1.7ポイント減少。男女別では、どちらも肯定的回答が高いが、女性**84.4%**、男性**74.7%**と女性のほうが9.7ポイント高い。前回調査では約40ポイントの差があったが今回は差が縮まっている。年齢別では、全ての年代において肯定的回答が高くなっている。18～19歳と80代で、否定的回答が**10%**、「どちらともいえない」が**20%**程度となっている。

⑩仕事よりも家庭を優先させたい

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	54	13.3%	62	17.7%	116	15.3%	71	9.1%
どちらかといえばそう思う	96	23.6%	84	24.0%	180	23.8%	178	22.8%
どちらともいえない	202	49.8%	160	45.7%	362	47.9%	408	52.2%
どちらかといえばそう思わない	22	5.4%	26	7.4%	48	6.3%	55	7.0%
そう思わない	32	7.9%	18	5.1%	50	6.6%	69	8.8%
n=	406		350		756		781	

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
そう思う	30.0%	21.2%	37.3%	27.6%	20.3%	7.9%	5.9%	3.6%
どちらかといえばそう思う	0.0%	39.4%	29.9%	27.6%	26.0%	28.2%	15.4%	12.5%
どちらともいえない	50.0%	21.2%	32.8%	37.1%	45.5%	51.4%	61.7%	51.8%
どちらかといえばそう思わない	0.0%	6.1%	0.0%	1.9%	4.1%	7.9%	10.1%	10.7%
そう思わない	20.0%	12.1%	0.0%	5.7%	4.1%	4.5%	6.9%	21.4%

「⑩仕事よりも家庭を優先させたい」では、「どちらともいえない」が**47.9%**(前回52.2%)と前回より4.3ポイント減少、否定的回答も減少し、肯定的回答が7.2ポイント増加している。男女別では、いずれも「どちらともいえない」が最も高い。年齢別では、前回はどの年代においても「どちらともいえない」の割合が高かったが、今回は20代で「どちらかといえばそう思う」、30代で「そう思う」が一番高くなっている。否定的回答では、10代及び80歳以上が他の年代に比べて割合が高く**20%以上**となっている。

2 家庭生活等について

問4 あなたの家庭では、次のような仕事はどなたの役割ですか。(配偶者・パートナーがある人が回答)

家庭生活での役割分担について、「①食事のしたく」は87.7%の女性と75.9%の男性が、女性が担っていると回答(割合は、「ほとんど自分(配偶者・パートナー)」と「どちらかといえば自分(配偶者・パートナー)」を合わせた割合)。
「②家計を支える」は55.8%の女性と52.3%の男性が、男性が担っていると回答。配偶者・パートナーと同程度負担していると回答した人は女性が28.7%(前年22.6%)、男性が36.2%(前年26.2%)と配偶者・パートナーと同程度負担していると思う男性の割合が10ポイント増加している。
「③子どもの世話・しつけ・行事」は、61.1%の女性と45.8%の男性が、女性が担っていると回答し、配偶者・パートナーと同程度負担とする人が男女ともわずかに増加している。
「④介護・看護」について66.9%の女性と50.6%の男性が女性が担っていると回答し、配偶者・パートナーと同程度負担とする人が男女とも増加している。
③と④の項目の結果から、子育て、介護・看護に関わる男性が増えていることがうかがえる。
「⑤地域活動(自治公民館、PTA活動等)」では、61.1%(前回53.1%)の男性と36.9%(前回31.8%)の女性が、男性が担っていると回答している。配偶者・パートナーと同程度負担と回答する女性が32.1%(前回15.9%)に対し、男性は13.0%(14.8%)となっており、前回調査に比較し男女の意識の差がある。

※R2調査では子育て関係項目は「小さい子ども(乳幼児)の世話」、「教育・しつけ」、「学校の行事」と別項目とし、これら3つの項目の回答を合算した数字を今回調査の「世話、しつけ、行事」の前年度数値とした。

【男女別集計】

①食事のしたく

	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど自分	164	63.1%	283	64.0%	9	3.4%	42	12.2%
どちらかといえば自分	64	24.6%	63	14.3%	13	5.0%	18	5.2%
配偶者・パートナーと同じ程度負担	17	6.5%	21	4.8%	37	14.1%	28	8.1%
どちらかといえば配偶者・パートナー	2	0.8%	7	1.6%	47	17.9%	56	16.2%
ほとんど配偶者・パートナー	5	1.9%	9	2.0%	152	58.0%	158	45.8%
親や子どもなど他の家族	8	3.1%	54	12.2%	4	1.5%	32	9.3%
該当する世話や活動がない	0	0.0%	5	1.1%	0	0.0%	11	3.2%
n=	260		442		262		345	

②家計を支える

	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど自分	13	5.0%	104	24.0%	58	22.3%	84	24.7%
どちらかといえば自分	21	8.1%	34	7.9%	78	30.0%	86	25.3%
配偶者・パートナーと同じ程度負担	74	28.7%	98	22.6%	94	36.2%	89	26.2%
どちらかといえば配偶者・パートナー	79	30.6%	59	13.6%	14	5.4%	20	5.9%
ほとんど配偶者・パートナー	65	25.2%	69	15.9%	14	5.4%	30	8.8%
親や子どもなど他の家族	5	1.9%	51	11.8%	0	0.0%	17	5.0%
該当する世話や活動がない	1	0.4%	18	4.2%	2	0.8%	14	4.1%
n=	258		433		260		340	

③子どもの世話・しつけ、行事

	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど自分	57	27.4%	32	36.4%	1	0.5%	5	3.4%
どちらかといえば自分	70	33.7%	23	26.1%	18	8.8%	8	5.4%
配偶者・パートナーと同じ程度負担	59	28.4%	23	26.1%	89	43.4%	57	38.3%
どちらかといえば配偶者・パートナー	10	4.8%	0	0.0%	64	31.2%	33	22.1%
ほとんど配偶者・パートナー	4	1.9%	2	2.3%	30	14.6%	29	19.5%
親や子どもなど他の家族	8	3.8%	8	9.1%	3	1.5%	17	11.4%
該当する世話や活動がない	37		45		41		174	
n=	245		133		246		323	

④介護・看護

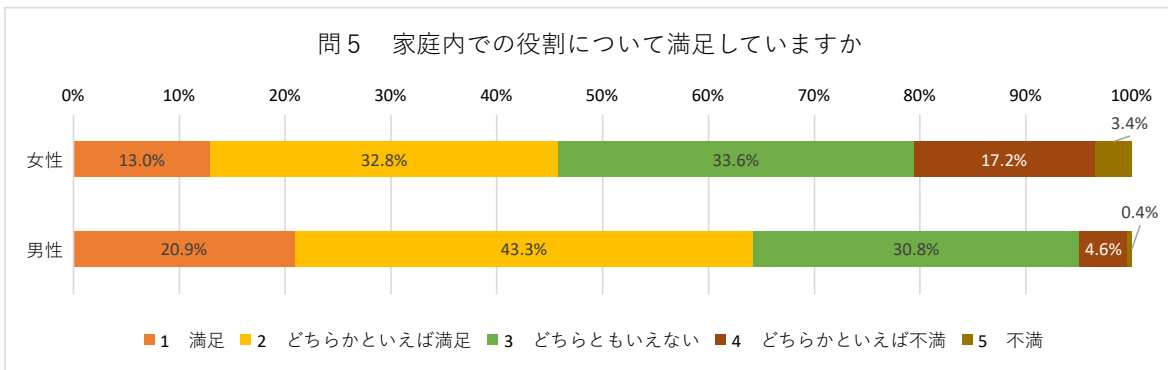
	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど自分	53	32.5%	36	44.4%	7	4.3%	18	13.2%
どちらかといえば自分	56	34.4%	21	25.9%	13	8.0%	14	10.3%
配偶者・パートナーと同じ程度負担	43	26.4%	14	17.3%	57	35.2%	37	27.2%
どちらかといえば配偶者・パートナー	8	4.9%	3	3.7%	46	28.4%	29	21.3%
ほとんど配偶者・パートナー	2	1.2%	4	4.9%	36	22.2%	27	19.9%
親や子どもなど他の家族	1	0.6%	3	3.7%	3	1.9%	11	8.1%
該当する世話や活動がない	82		61		82		190	
n=	245		142		244		326	

⑤地域活動(自治公民館、PTA活動等)

	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんど自分	30	11.9%	36	23.8%	48	20.8%	92	27.3%
どちらかといえば自分	28	11.1%	19	12.6%	93	40.3%	87	25.8%
配偶者・パートナーと同じ程度負担	81	32.1%	24	15.9%	30	13.0%	50	14.8%
どちらかといえば配偶者・パートナー	54	21.4%	25	16.6%	14	6.1%	21	6.2%
ほとんど配偶者・パートナー	39	15.5%	23	15.2%	30	13.0%	20	5.9%
親や子どもなど他の家族	2	0.8%	14	9.3%	5	2.2%	30	8.9%
該当する世話や活動がない	18	7.1%	10	6.6%	11	4.8%	37	11.0%
n=	252		151		231		337	

問5 問4の現在の家庭内でやっていることについて、あなたは満足していますか。

家庭内の役割について、男性では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた「満足」が、64.2%（前回59.3%）、女性では45.8%（前回57.1%）と前回に比較して差が広がった。一方、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた「不満」では、男性は5.0%（前回4.7%）ほぼ同じだが、女性は20.6%（前回13.6%）と前回に比較して高くなっている。



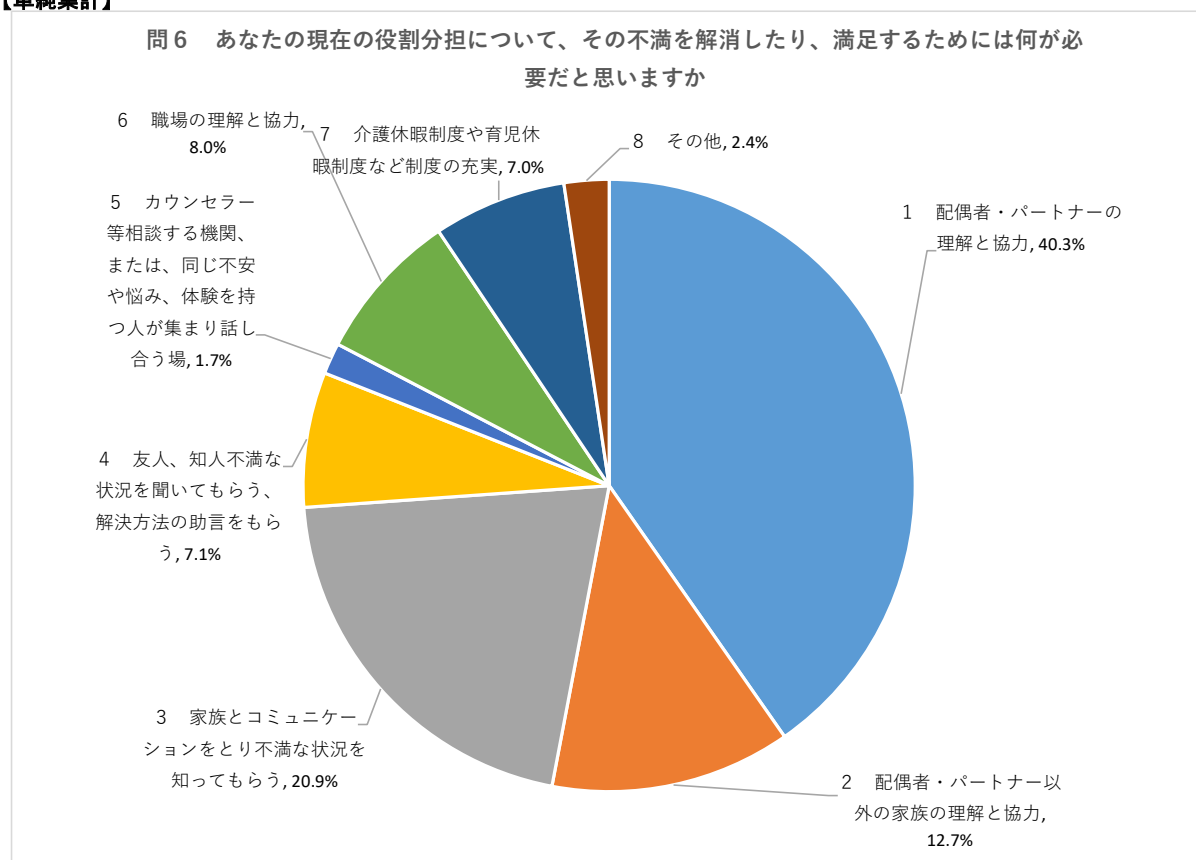
(男女別)

	女		前回女(R2)		男		前回男(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
満足	34	13.0%	79	17.9%	55	20.9%	62	18.1%
どちらかといえば満足	86	32.8%	173	39.2%	114	43.3%	141	41.2%
どちらともいえない	88	33.6%	129	29.3%	81	30.8%	123	36.0%
どちらかといえば不満	45	17.2%	46	10.4%	12	4.6%	14	4.1%
不満	9	3.4%	14	3.2%	1	0.4%	2	0.6%
n=	262		441		263		342	

問6 あなたの現在の役割分担について、その不満を解消したり、満足するためには何が必要だと思いますか。
(複数回答 ※R2年度調査は〇は3つまで)

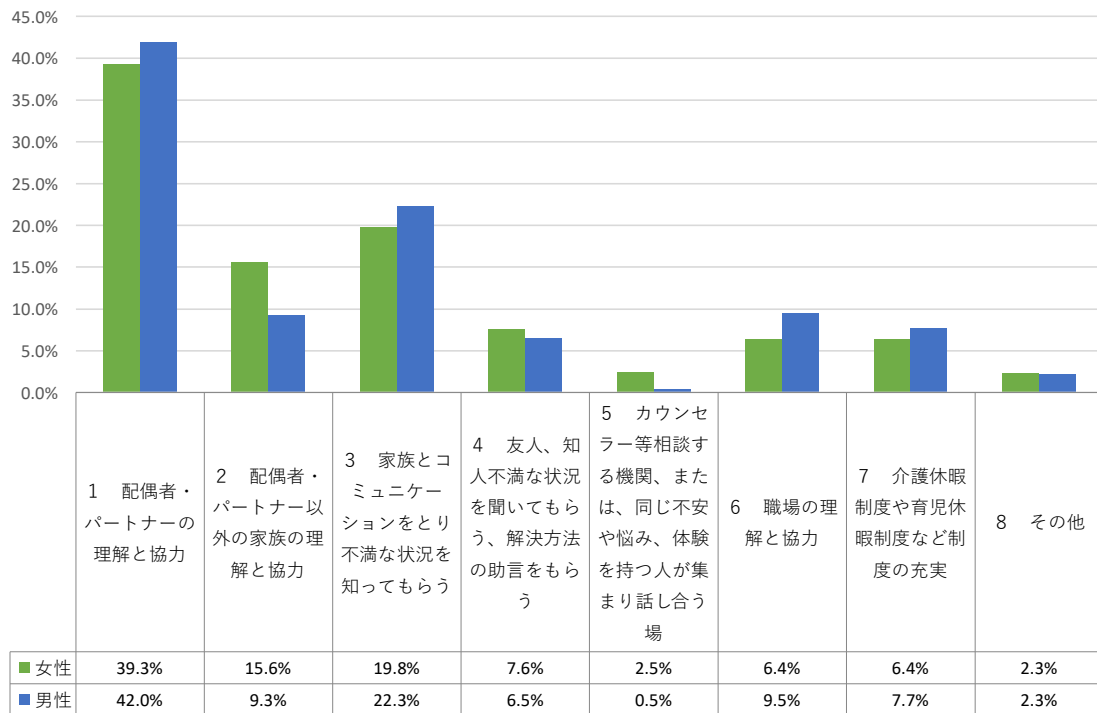
家庭生活において役割分担の不満を解消したりするために何が必要かについて、「1 配偶者・パートナーの理解と協力」が40.3%(前回25.4%)、「3 家族で話しあい、コミュニケーションをとり不満な状況を知ってもらう」が20.9%(前回25.4%)、「2 配偶者・パートナー以外の家族の理解と協力」12.7%(前回9.2%)、「6 職場の理解と協力」が8.0%(前回8.1%)の順となっている。

【単純集計】



【男女別集計】

問 6 あなたの現在の役割について、その不満を解消したり、満足するためには何が
必要だと思いますか

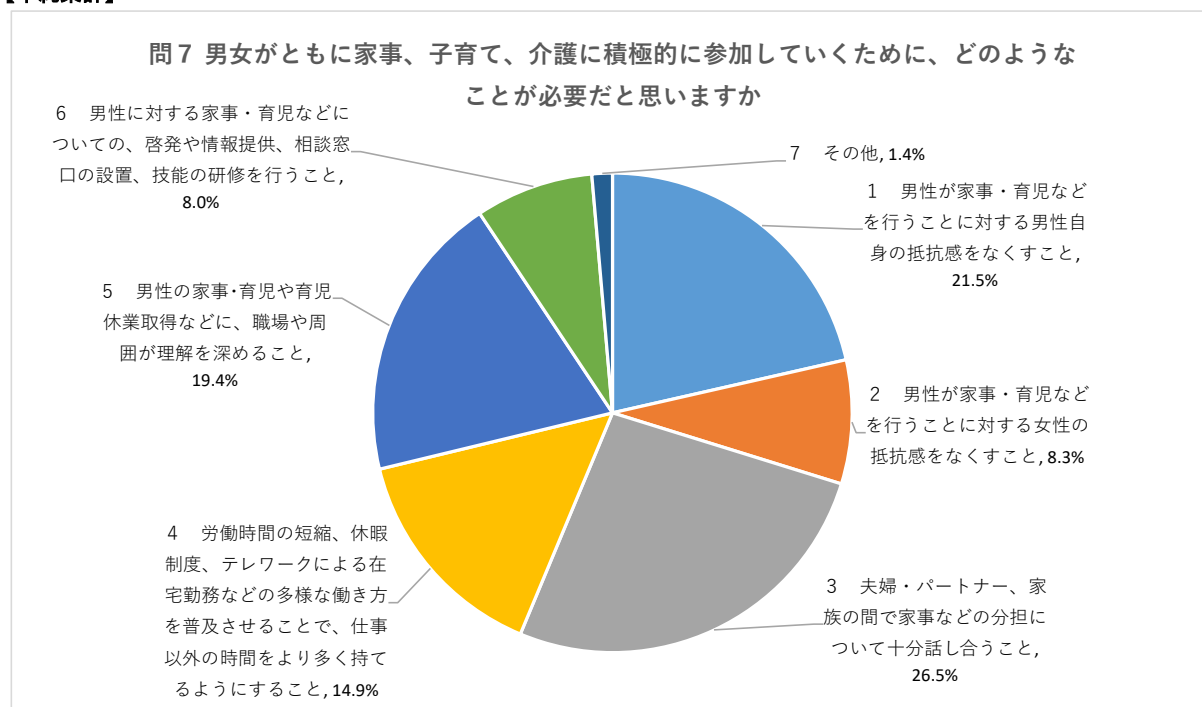


	女		男		総計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 配偶者・パートナーの理解と協力	202	39.3%	186	42.0%	388	40.5%	300	25.4%
2 配偶者・パートナー以外の家族の理解と協力	80	15.6%	41	9.3%	121	12.6%	108	9.2%
3 家族で話しあい、コミュニケーションをとり不満な状況を知ってもらう	102	19.8%	99	22.3%	201	21.0%	300	25.4%
4 人や知人と話しあい、コミュニケーションをとり、不満な状況を聞いてもらう、または、解決方法の助言をもらう	39	7.6%	29	6.5%	68	7.1%	114	9.7%
5 カウンセラーなど相談する機関、または同じ不安や悩み、体験を持つ人が集まり話し合う場	13	2.5%	2	0.5%	15	1.6%	100	8.5%
6 職場の理解と協力	33	6.4%	42	9.5%	75	7.8%	95	8.1%
7 介護休暇制度や育児休暇制度など制度の充実	33	6.4%	34	7.7%	67	7.0%	87	7.4%
8 その他	12	2.3%	10	2.3%	22	2.3%	76	6.4%
n=	514		443		957		1180	

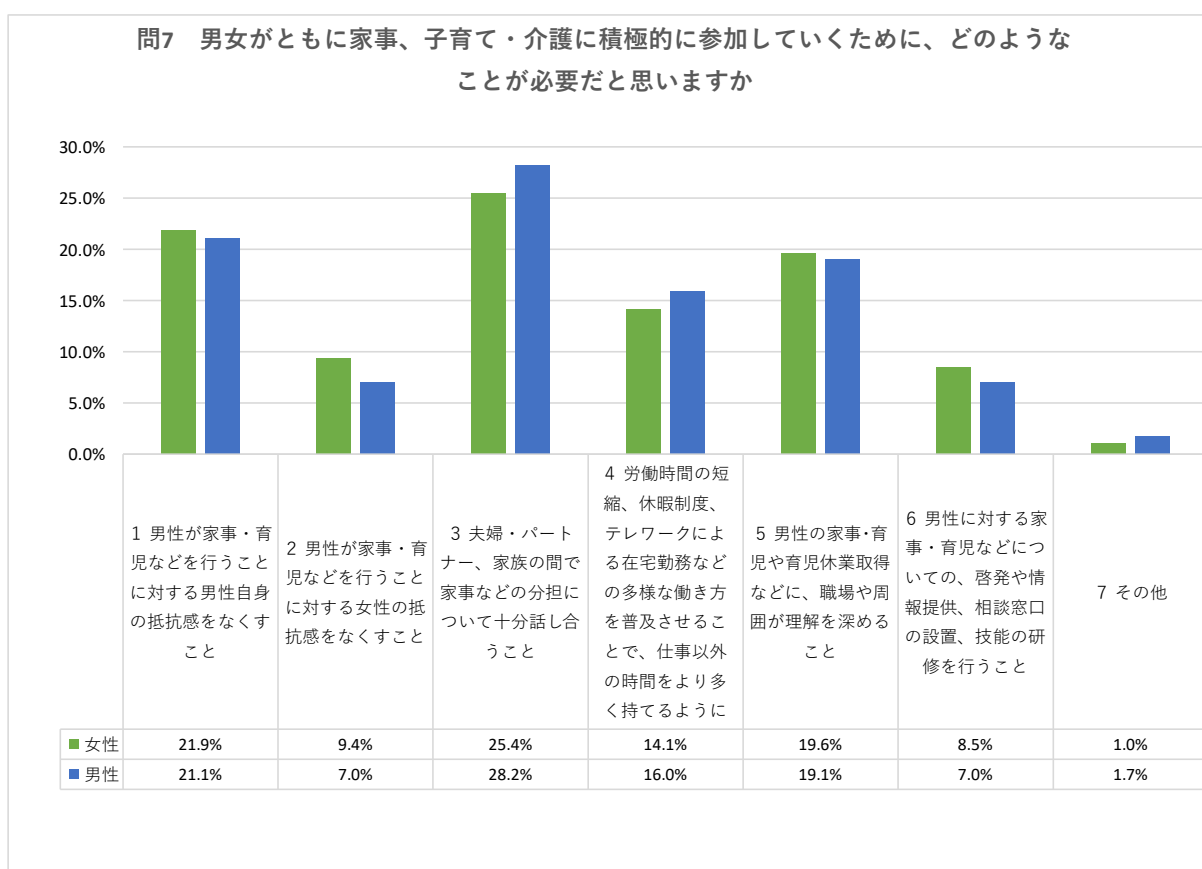
問7 男女がともに家事、子育て、介護に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。

男女がともに家事、子育て、介護に積極的に参加していくために何が必要かについて、多い順に、「3 夫婦・パートナー、家族の間で家事などの分担について十分話し合うこと」が26.5%、「1 男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が21.5%、「5 男性の家事・育児や育児休業取得などに、職場や周囲が理解を深めること」が19.4%となっている。

【単純集計】



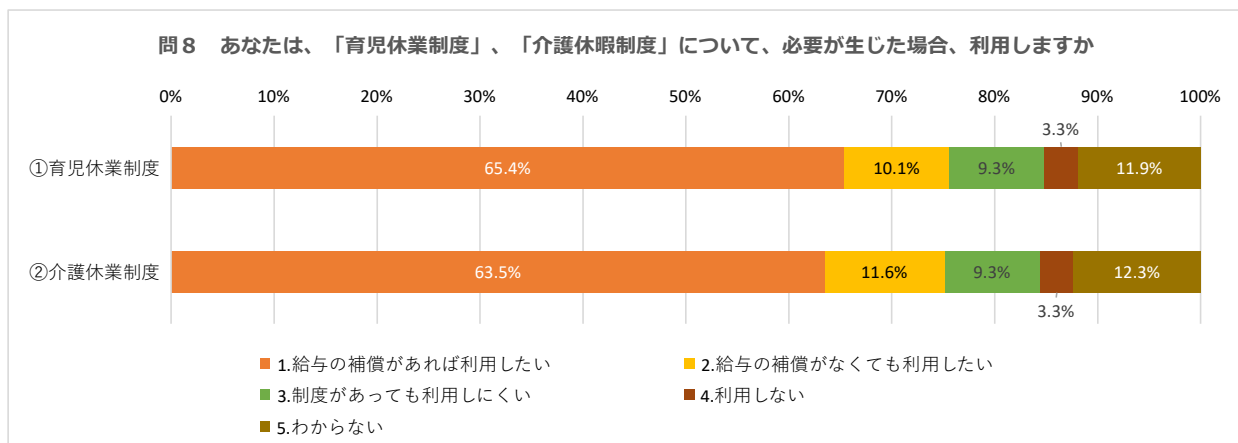
【男女別集計】



問8 あなたは、「育児休業制度」、「介護休業制度」について、必要が生じた場合、利用しますか。

「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用について、「育児休業制度」では65.4%（前回64.0%）、「介護休業制度」では63.5%（前回62.9%）の人が、「給与の補償があれば利用したい」と回答している。前回調査とほぼ同様の結果となっている。

【単純集計】



【男女別集計】

①育児休業制度

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
給与の補償があれば利用したい	168	71.8%	128	59.0%	296	65.6%	224	64.0%
給与の補償がなくても利用したい	29	12.4%	16	7.4%	45	10.0%	36	10.3%
制度があっても利用しにくい	11	4.7%	31	14.3%	42	9.3%	37	10.6%
利用しない	0	0.0%	15	6.9%	15	3.3%	8	2.3%
わからない	26	11.1%	27	12.4%	53	11.8%	45	12.9%
n=	234		217		451		350	

②介護休業制度

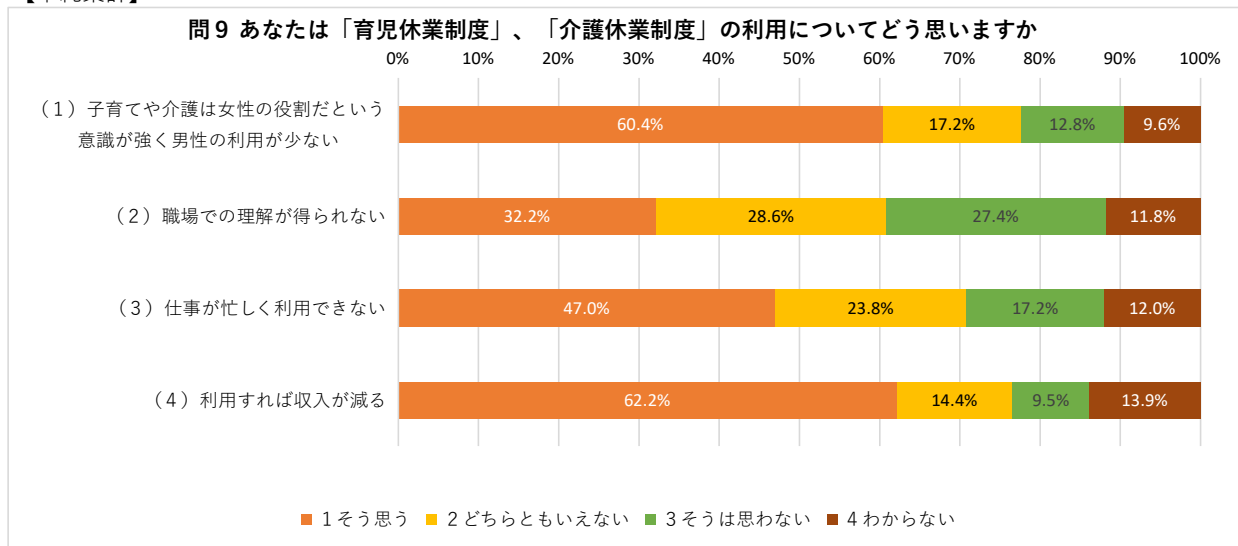
	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
給与の補償があれば利用したい	199	67.5%	147	58.8%	346	63.5%	295	62.9%
給与の補償がなくても利用したい	30	10.2%	33	13.2%	63	11.6%	42	9.0%
制度があっても利用しにくい	23	7.8%	28	11.2%	51	9.4%	50	10.7%
利用しない	3	1.0%	15	6.0%	18	3.3%	12	2.6%
わからない	40	13.6%	27	10.8%	67	12.3%	70	14.9%
n=	295		250		545		469	

問9 「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用についての意識

「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用について、「子育てや介護は女性の役割だ」という意識が強く男性の利用が少ない」では「そう思う」と回答している人は60.4%（前回60.1%）、「職場での理解が得られない」では「そう思う」と回答している人は32.2%（前回28.1%）、「仕事が忙しく利用できない」では「そう思う」と回答している人は47.0%（前回37.3%）、「利用すれば収入が減る」では「そう思う」と回答している人は62.2%（前回56.4%）であった。

子育てや介護は女性の役割とする意識の人の割合は変化がなかったが、仕事・収入に関する負担感を感じる人の割合が前回調査よりも高くなっている。

【単純集計】



【男女別集計】

① 子育てや介護は女性の役割だという意識が強く男性の利用が少ない

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	231	65.3%	146	54.7%	377	60.7%	312	60.1%
どちらともいえない	54	15.3%	54	20.2%	108	17.4%	92	17.7%
そうは思わない	30	8.5%	46	17.2%	76	12.2%	63	12.1%
わからない	39	11.0%	21	7.9%	60	9.7%	52	10.0%
n=	354		267		621		519	

② 職場での理解が得られない

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	109	35.2%	71	28.0%	180	31.9%	128	28.1%
どちらともいえない	75	24.2%	86	33.9%	161	28.5%	133	29.2%
そうは思わない	83	26.8%	73	28.7%	156	27.7%	124	27.2%
わからない	43	13.9%	24	9.4%	67	11.9%	71	15.6%
n=	310		254		564		456	

③ 仕事が忙しく利用できない

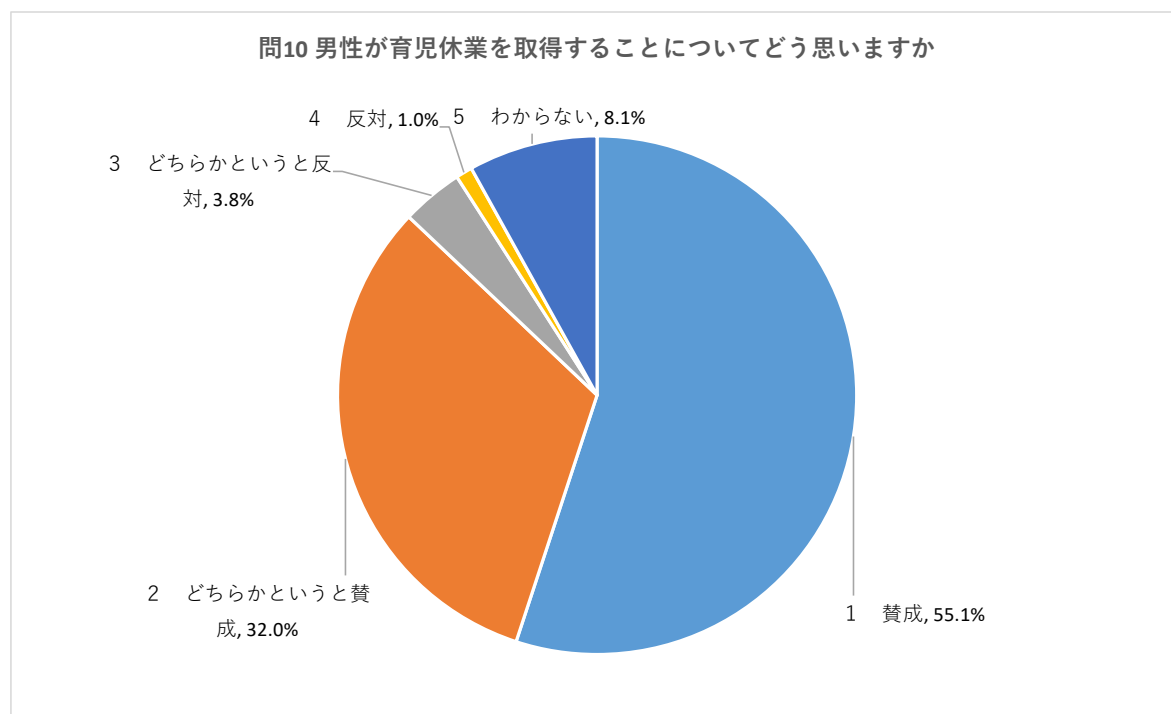
	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	126	44.5%	122	49.6%	248	46.9%	169	37.3%
どちらともいえない	68	24.0%	57	23.2%	125	23.6%	97	21.4%
そうは思わない	48	17.0%	44	17.9%	92	17.4%	104	23.0%
わからない	41	14.5%	23	9.3%	64	12.1%	83	18.3%
n=	283		246		529		453	

④ 利用すれば収入が減る

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	190	64.0%	151	59.7%	341	62.0%	263	56.4%
どちらともいえない	34	11.4%	46	18.2%	80	14.5%	67	14.4%
そうは思わない	25	8.4%	28	11.1%	53	9.6%	55	11.8%
わからない	48	16.2%	28	11.1%	76	13.8%	81	17.4%
n=	297		253		550		466	

問10 男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。

「賛成」「どちらかという賛成」という人が87.1%、「反対」「どちらかという反対」4.8%と、8割以上の人が男性の育児休業取得に賛成している。「わからない」とする人は1割未満だが、男性より女性の方が多い。



【男女別集計】

	女		男		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
賛成	247	58.5%	182	51.3%	429	55.2%
どちらかという賛成	118	28.0%	130	36.6%	248	31.9%
どちらかという反対	14	3.3%	16	4.5%	30	3.9%
反対	3	0.7%	5	1.4%	8	1.0%
わからない	40	9.5%	22	6.2%	62	8.0%
n=	422		355		777	

【年齢別集計】

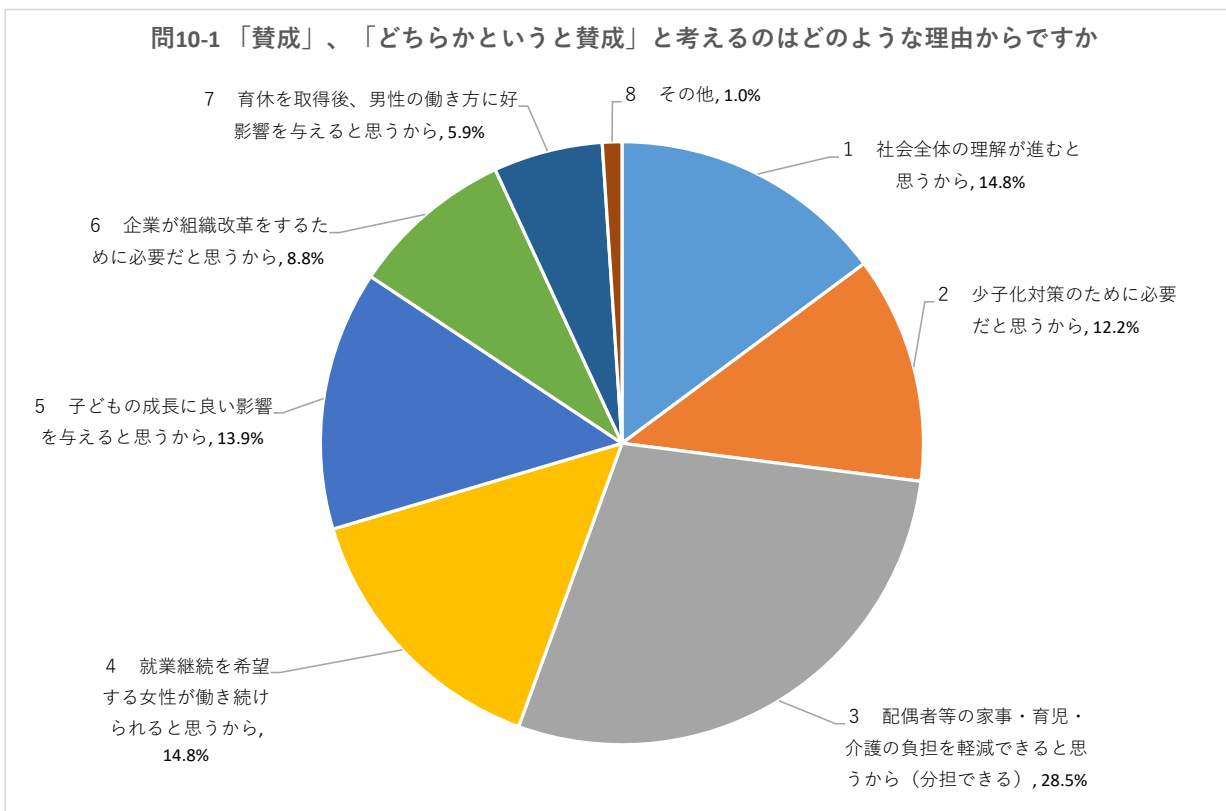
	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
賛成	80.0%	82.4%	69.1%	51.4%	53.7%	53.7%	53.0%	41.3%
どちらかという賛成	10.0%	11.8%	19.1%	37.4%	33.1%	36.2%	31.5%	38.1%
どちらかという反対	0.0%	0.0%	1.5%	2.8%	8.3%	3.4%	4.0%	3.2%
反対	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	1.1%	1.0%	3.2%
わからない	10.0%	5.9%	10.3%	7.5%	4.1%	5.6%	10.5%	14.3%

問10-1 「賛成」、「どちらかという賛成」と考えるのはどのような理由からです。(複数回答)

男性が育児休業を取得することについて「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」と考える理由は、「3 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できると思うから(分担できる)」が28.5%と最も高く、次いで「1 社会全体の理解が進むと思うから」及び「4 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから」が14.8%、「5 子どもの成長に良い影響を与えると思うから」が13.9%、「2 少子化対策のために必要だと思うから」が12.2%となっている。

夫婦・パートナー同士の家事軽減(分担)意識が高い結果となっている。

【単純集計】



【男女別集計】

	女		男		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 社会全体の理解が進むと思うから	151	14.6%	119	15.2%	270	14.9%
2 少子化対策のために必要だと思うから	109	10.6%	113	14.4%	222	12.2%
3 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できと思うから(分担できる)	297	28.8%	222	28.4%	519	28.6%
4 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから	161	15.6%	108	13.8%	269	14.8%
5 子どもの成長に良い影響を与えると思うから	147	14.3%	104	13.3%	251	13.8%
6 企業が組織改革をするために必要だと思うから	86	8.3%	72	9.2%	158	8.7%
7 育休を取得後、男性の働き方に好影響を与えると思うから	70	6.8%	36	4.6%	106	5.8%
8 その他	10	1.0%	9	1.1%	19	1.0%
n= 1031 783 1814						

男女別集計では、男性が育児休業を取得することについて「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」と考える理由は、「3 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できと思うから(分担できる)」が男女とも最も高く、**男女とも夫婦・パートナー同士の家事軽減(分担)意識が高い結果となっている**。2番目3番目の項目は、男性では「1 社会全体の理解が進むと思うから」が**15.2%**、「2 少子化対策のために必要だと思うから」が**14.4%**、女性では「4 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから」が**15.6%**、「1 社会全体の理解が進むと思うから」が**14.6%**となっている。

【年齢別集計】

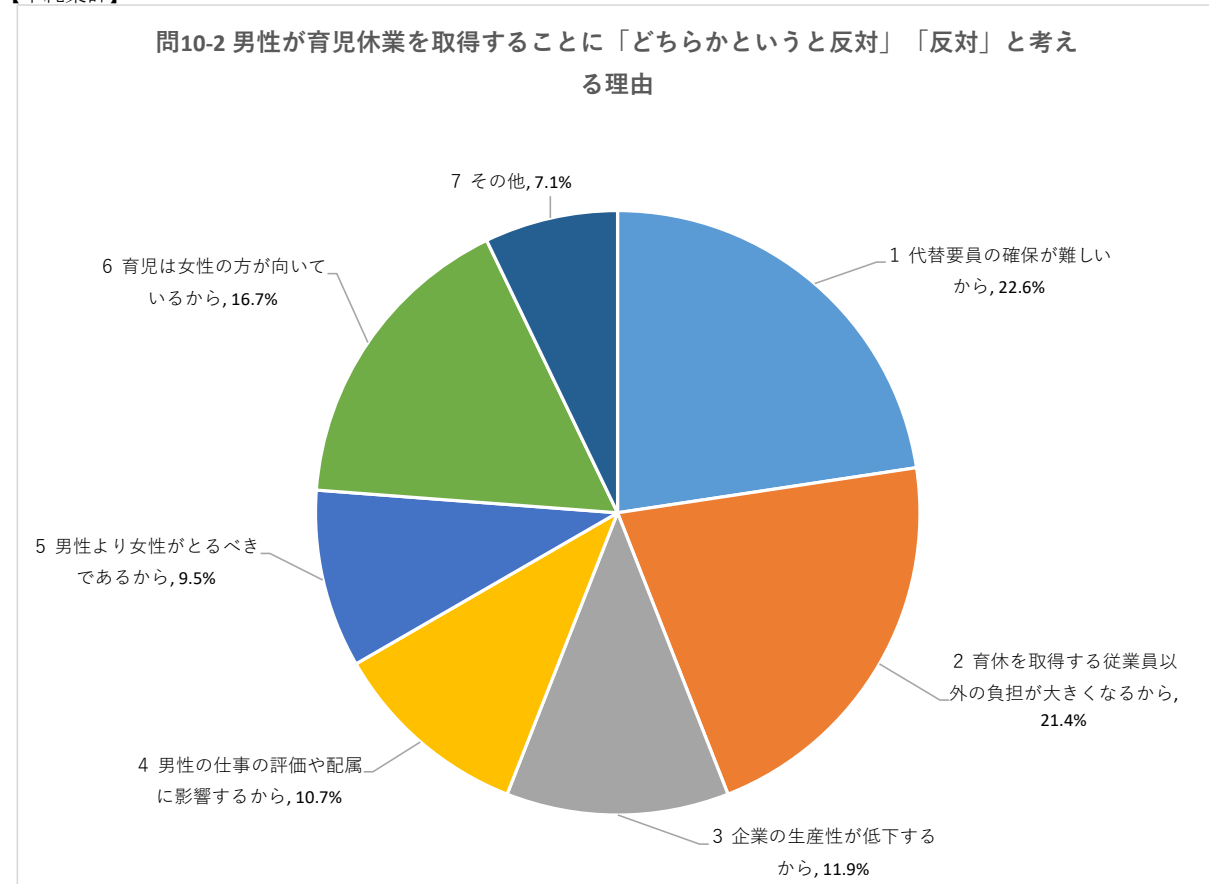
	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
1 社会全体の理解が進むと思うから	19.2%	16.0%	15.8%	13.0%	17.3%	13.9%	14.1%	17.6%
2 少子化対策のために必要だと思うから	3.8%	9.4%	8.4%	13.4%	10.8%	12.1%	13.1%	20.4%
3 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できと思うから(分担できる)	30.8%	26.4%	27.4%	28.0%	29.9%	28.2%	29.2%	28.7%
4 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから	15.4%	13.2%	16.8%	14.2%	12.9%	15.9%	15.6%	13.0%
5 子どもの成長に良い影響を与えると思うから	11.5%	14.2%	15.8%	16.1%	14.4%	13.2%	12.4%	13.0%
6 企業が組織改革をするために必要だと思うから	3.8%	9.4%	6.8%	9.2%	9.0%	9.4%	9.5%	5.6%
7 育休を取得後、男性の働き方に好影響を与えると思うから	11.5%	9.4%	7.9%	5.0%	4.7%	6.3%	5.6%	1.9%
8 その他	3.8%	1.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	0.5%	0.0%

全ての年代において「3 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できと思うから(分担できる)」が3割前後で最も高い。「1 社会全体の理解が進むと思うから」、「4 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから」、「5 子どもの成長に良い影響を与えると思うから」が18-19歳から60代まで年代により前後するが、2番目、3番目、4番目となっている。「2 少子化対策のために必要だと思うから」が70代と80歳以上が上位4項目内に入っており、70代では4番目、80歳以上では2番目となっている。「7 育休を取得後、男性の働き方に好影響を与えると思うから」の項目においては、18-19歳が他の年代よりも高くなっている。

問10-2 「どちらかという反対」、「反対」と考えるのはどのような理由からですか。（複数回答）

男性が育児休業を取得することについて「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた「反対」と考える理由は、「1 代替要員の確保が難しいから」が22.6%、「2 育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから」が21.4%、「6 育児は女性の方が向いているから」16.7%となっている。
働く場の負担を感じる人の割合が高い結果となっている。

【単純集計】



【男女別集計】

	女		男		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 代替要員の確保が難しいから	7	18.4%	12	30.0%	19	24.4%
2 育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから	9	23.7%	9	22.5%	18	23.1%
3 企業の生産性が低下するから	3	7.9%	1	2.5%	4	5.1%
4 男性の仕事の評価や配属に影響するから	5	13.2%	4	10.0%	9	11.5%
5 男性より女性がとるべきであるから	5	13.2%	3	7.5%	8	10.3%
6 育児は女性の方が向いているから	5	13.2%	9	22.5%	14	17.9%
7 その他	4	10.5%	2	5.0%	6	7.7%
	n = 38		40		78	

問10-1の男性の育児休業取得に賛成派の男女差はほとんどないが、本設問の反対派においては選択肢によっては男女差がある。男女差が大きい選択肢は、「1 代替要員の確保が難しいから」が11.6ポイント、「6 育児は女性の方が向いているから」が9.3ポイントの差があり、ともに男性の割合が高い。

【年齢別集計】

	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	
1 代替要員の確保が難しいから	0.0%	0.0%	50.0%	21.4%	34.8%	22.2%	12.5%	11.1%	1
2 育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	21.7%	27.8%	12.5%	22.2%	2
3 企業の生産性が低下するから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.0%	16.7%	25.0%	0.0%	0
4 男性の仕事の評価や配属に影響するから	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	8.7%	5.6%	12.5%	22.2%	2
5 男性より女性がとるべきであるから	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	11.1%	18.8%	11.1%	1
6 育児は女性の方が向いているから	0.0%	0.0%	50.0%	21.4%	4.3%	16.7%	18.8%	33.3%	3
7 その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0
	0人	0人	2人	14人	23人	18人	16人	9人	

40代から60代までの年代では「1 代替要員の確保が難しい」、「2 育休を取得する従業員以外の負担が大きくなる」が高くなっている。

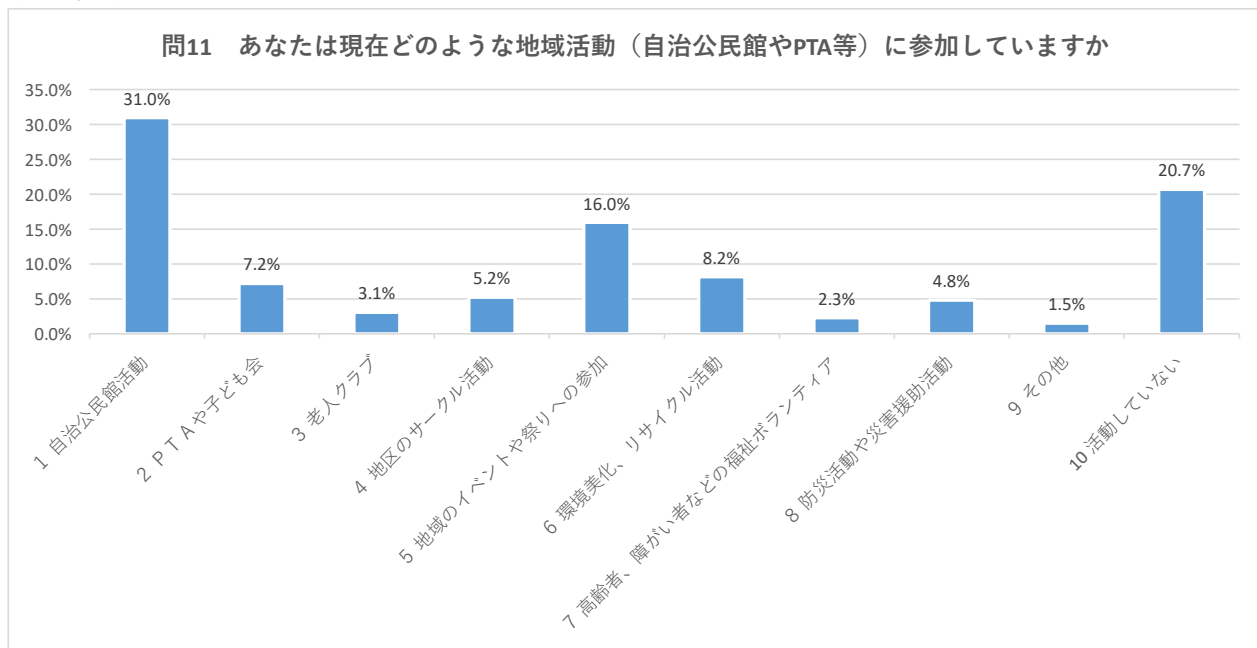
3 地域活動について

問11 あなたは現在どのような地域活動（自治公民館やPTA等）に参加していますか。（複数回答）

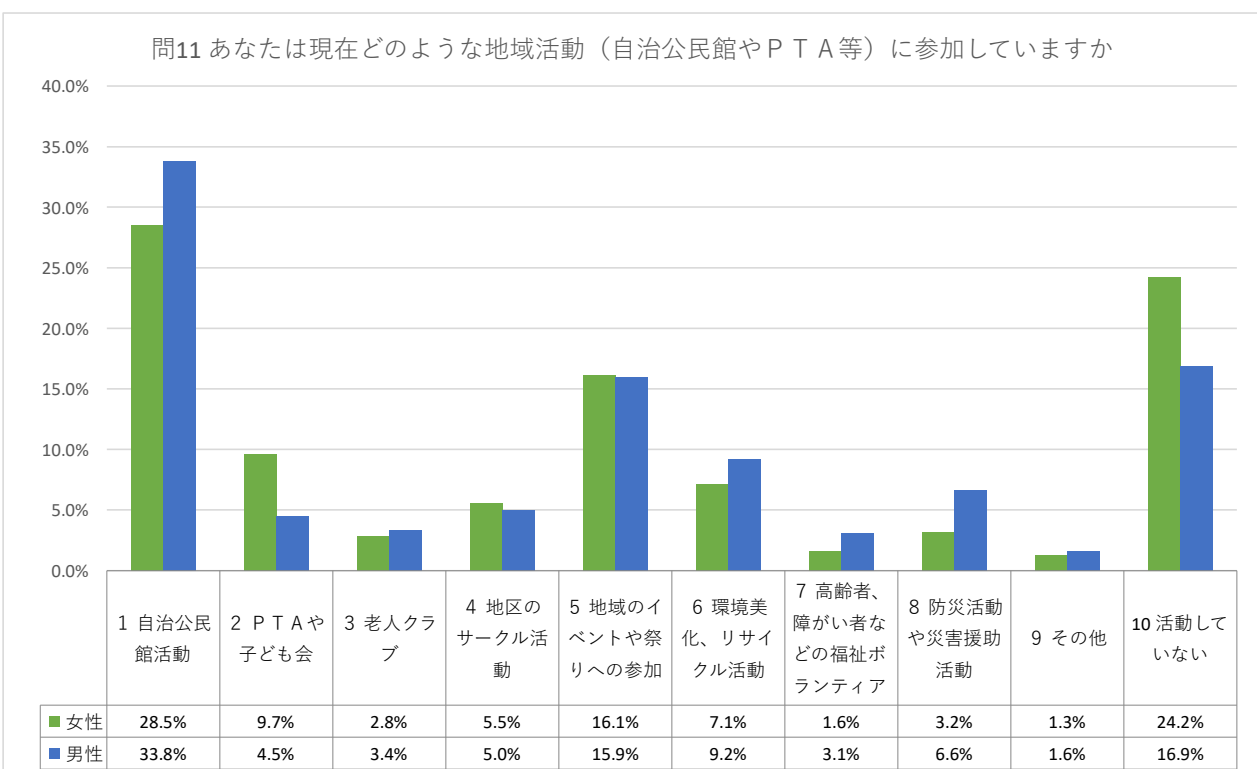
どのような地域活動（自治公民館活動等）に参加しているかについて、「1 自治公民館活動」と回答している人は**31.0%**（前回26.4%）、「5 地域のイベントや祭り」は**16.0%**（前回17.6%）、「7 環境美化・リサイクル活動」は**8.2%**（前回10.4%）となっている。一方、「12 活動していない」と回答している人は**20.7%**（前回17.7%）であった。

男女別集計で性別の差が大きい項目を見ると、女性の方が高い項目は、「12 活動していない」（女性24.2%、男性16.9%）で7.3ポイント女性が高く、次いで「2 PTAや子ども会」（女性9.7%、男性4.5%）で5.2ポイント女性が高い。男性の方が高い項目は「1自治公民館活動」（女性28.5%、男性33.8%）で5.3ポイント、「9 防災活動や災害援助活動」（女性3.2%、男性6.6%）で3.4ポイント男性が高くなっている。

（単純集計）



（男女別集計）



	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 自治公民館活動	 180	28.5%	 210	33.8%	 390	31.1%	 377	26.4%
2 PTAや子ども会	 61	9.7%	 28	4.5%	 89	7.1%	 98	6.9%
3 老人クラブ	 18	2.8%	 21	3.4%	 39	3.1%	 48	3.4%
4 地区のサークル活動	 35	5.5%	 31	5.0%	 66	5.3%	 118	8.3%
5 地域のイベントや祭りへの参加	 102	16.1%	 99	15.9%	 201	16.0%	 251	17.6%
6 環境美化、リサイクル活動	 45	7.1%	 57	9.2%	 102	8.1%	 149	10.4%
7 高齢者、障がい者などの福祉ボランティア	 10	1.6%	 19	3.1%	 29	2.3%	 47	3.3%
8 防災活動や災害援助活動	 20	3.2%	 41	6.6%	 61	4.9%	 59	4.1%
9 その他	 8	1.3%	 10	1.6%	 18	1.4%	 29	2.0%
10 活動していない	 153	24.2%	 105	16.9%	 258	20.6%	 253	17.7%
n=	632		621		1,253		1,429	

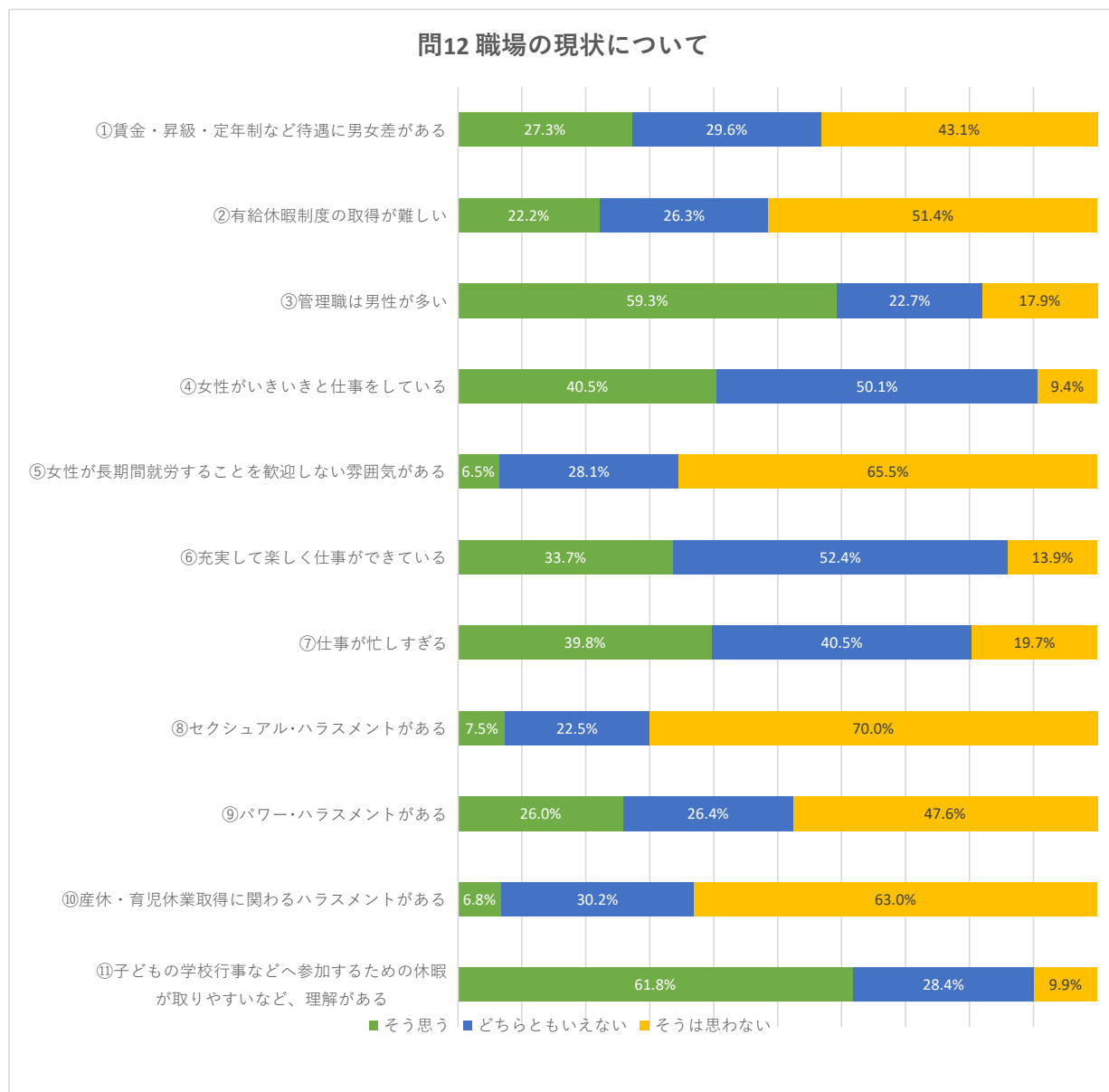
4 就労・働き方について

問12 職業(仕事)をお持ちのかたにおたずねします。※職場の現状について

自分の職業(仕事)について、「②有給休暇の取得が難しい」と回答した人は**22.2%**(前回20.7%)、「③管理職は男性が多い」と回答した人は**59.3%**(前回55.0%)、「⑦仕事が忙しすぎる」と回答した人は**39.8%**(前回33.4%)と微増している。また、「①賃金・昇給・定年制など男女の差がある」で「そうは思わない」、すなわち男女の差がないと回答した人は**43.1%**(前回43.8%)と横ばい、「⑪子どもの学校行事などへ参加するための休暇が取りやすいなど、理解がある」と回答した人は**61.8%**(前回58.0%)と微増している。

ハラスメント関係では、「⑧セクシュアルハラスメントがある」と回答した人は**7.5%**(前回3.0%)、「⑨パワー・ハラスメントがある」と回答した人は**26.0%**(前回15.0%)、「⑩産休・育児休業に関するハラスメントがある」と回答した人は**6.8%**(前回4.6%)と、前回よりも増加している。
※「⑩産休・育児休業に関わるハラスメントがある」の令和2年度調査数値は「マタニティ・ハラスメントがある」「パタニティ・ハラスメントがある」の合算

【単純集計】



【男女別集計】

①賃金・昇給・定年制など待遇に男女差がある。

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 54	24.5%	 59	29.6%	 113	27.0%	 78	19.8%
どちらともいえない	 74	33.6%	 50	25.1%	 124	29.6%	 143	36.4%
そうは思わない	 92	41.8%	 90	45.2%	 182	43.4%	 172	43.8%
n =	220		199		419		393	

②有給休暇制度の取得が難しい

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 47	21.4%	 45	23.1%	 92	22.2%	 81	20.7%
どちらともいえない	 59	26.8%	 49	25.1%	 108	26.0%	 87	22.3%
そうは思わない	 114	51.8%	 101	51.8%	 215	51.8%	 223	57.0%
n =	220		195		415		391	

③管理職は男性が多い

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 113	51.4%	 133	68.2%	 246	59.3%	 215	55.0%
どちらともいえない	 57	25.9%	 38	19.5%	 95	22.9%	 90	23.0%
そうは思わない	 50	22.7%	 24	12.3%	 74	17.8%	 86	22.0%
n =	220		195		415		391	

④女性が生き生きと仕事をしている

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 94	42.5%	 75	38.9%	 169	40.8%	 152	38.9%
どちらともいえない	 105	47.5%	 101	52.3%	 206	49.8%	 190	48.6%
そうは思わない	 22	10.0%	 17	8.8%	 39	9.4%	 49	12.5%
n =	221		193		414		391	

⑤女性が長時間就労することを歓迎しない雰囲気がある

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 8	3.7%	 19	9.7%	 27	6.5%	 28	7.1%
どちらともいえない	 54	24.7%	 62	31.8%	 116	28.0%	 119	30.4%
そうは思わない	 157	71.7%	 114	58.5%	 271	65.5%	 245	62.5%
n =	219		195		414		392	

⑥充実して楽しく仕事ができている

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 74	33.9%	 66	33.8%	 140	33.9%	 144	36.5%
どちらともいえない	 113	51.8%	 103	52.8%	 216	52.3%	 188	47.7%
そうは思わない	 31	14.2%	 26	13.3%	 57	13.8%	 62	15.7%
n =	218		195		413		394	

⑦仕事が忙しすぎる

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 86	39.3%	 78	40.0%	 164	39.6%	 131	33.4%
どちらともいえない	 89	40.6%	 79	40.5%	 168	40.6%	 179	45.7%
そうは思わない	 44	20.1%	 38	19.5%	 82	19.8%	 82	20.9%
n=	219		195		414		392	

⑧セクシュアル・ハラスメントがある

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 13	6.0%	 17	8.7%	 30	7.3%	 12	3.0%
どちらともいえない	 44	20.5%	 47	24.0%	 91	22.1%	 67	17.0%
そうは思わない	 158	73.5%	 132	67.3%	 290	70.6%	 315	79.9%
n=	215		196		411		394	

⑨パワー・ハラスメントがある

	女		男		計		前回 (R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 53	24.4%	 52	26.5%	 105	25.4%	 59	15.0%
どちらともいえない	 62	28.6%	 48	24.5%	 110	26.6%	 95	24.2%
そうは思わない	 102	47.0%	 96	49.0%	 198	47.9%	 239	60.8%
n=	217		196		413		393	

⑩産休・育児休業に関わるハラスメントがある

	女		男		計		前回 (R2) ※	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 15	7.0%	 13	6.6%	 28	6.8%	 21	4.6%
どちらともいえない	 60	27.9%	 62	31.6%	 122	29.7%	 139	30.2%
そうは思わない	 140	65.1%	 121	61.7%	 261	63.5%	 301	65.3%
n=	215		196		411		461	

⑪子どもの学校行事などへ参加するための休暇が取りやすいなど、理解がある

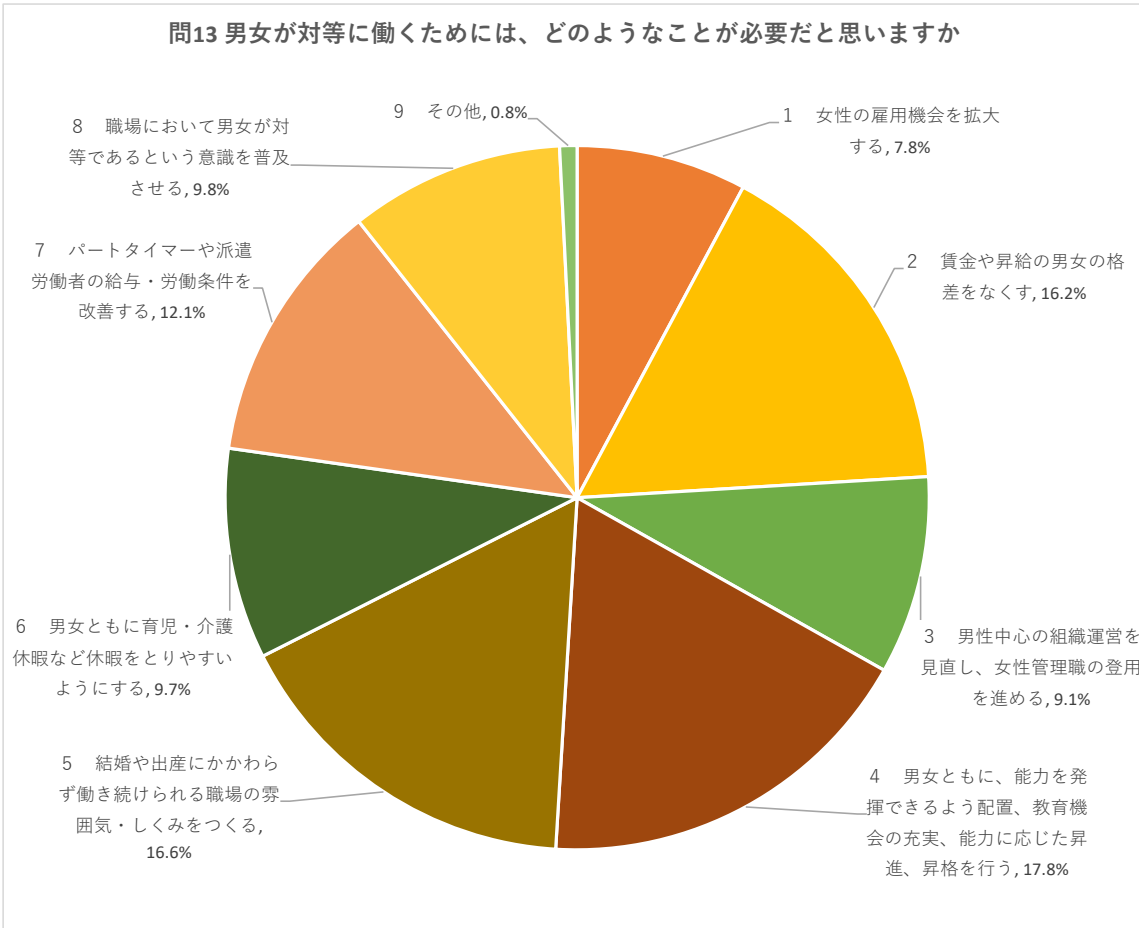
	女		男		計		前回 (H27)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
そう思う	 141	64.7%	 115	59.0%	 256	62.0%	 225	58.0%
どちらともいえない	 59	27.1%	 57	29.2%	 116	28.1%	 120	30.9%
そうは思わない	 18	8.3%	 23	11.8%	 41	9.9%	 43	11.1%
n=	218		195		413		388	

問13 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女が対等に働くために必要なことについて、「4 男女ともに、能力を発揮できるよう配置、教育機会の充実、能力に応じた昇進、昇格を行う」が17.8%(前回15.7%※)、「5 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気・しくみをつくる」が16.6%(前回16.8%)、「2 賃金や昇給の男女の格差をなくす」が16.2%(前回14.6%)となっている。

男女別集計で「6 男女ともに育児・介護休暇など休暇をとりやすいようにする」が9.7%(前回15.3%)と前回調査から5.6ポイント下がっているが男女の意識の差が14.7ポイントと大きい。

(単純集計)



【男女別集計】

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 女性の雇用機会を拡大する	103	7.0%	89	7.9%	192	7.8%	199	8.4%
2 賃金や昇給の男女の格差をなくす	224	15.2%	173	17.5%	397	16.2%	347	14.6%
3 男性中心の組織運営を見直し、女性管理職の登用を進める	113	7.7%	111	11.3%	224	9.1%	187	7.9%
4 男女ともに、能力を発揮できるよう配置、教育機会の充実、能力に応じた昇進、昇格を行う ※	236	16.1%	201	20.4%	437	17.8%	373	15.7%
5 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気・しくみをつくる	245	16.7%	163	16.5%	408	16.6%	400	16.8%
6 男女ともに育児・介護休暇など休暇をとりやすいようにする	230	15.6%	9	0.9%	239	9.7%	363	15.3%
7 パートタイマーや派遣労働者の給与・労働条件を改善する	181	12.3%	117	11.9%	298	12.1%	286	12.0%
8 職場において男女が対等であるという意識を普及させる	132	9.0%	109	11.1%	241	9.8%	201	8.5%
9 その他	6	0.4%	14	1.4%	20	0.8%	19	0.8%
n=	1,470		986		2,456		2,375	

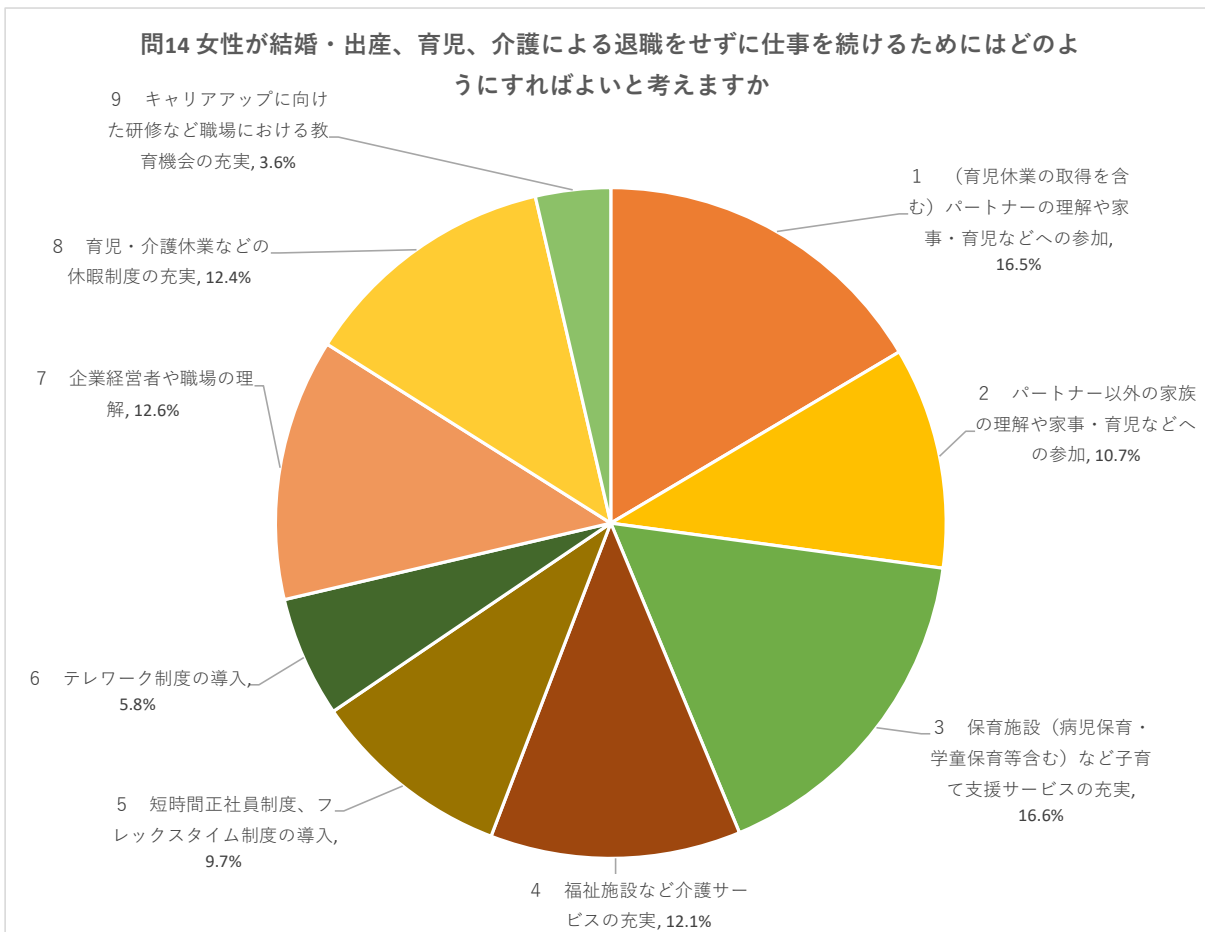
※「4 男女ともに、能力を発揮できるよう配置、教育機会の充実、能力に応じた昇進、昇格を行う」の令和2年度調査数値は「男女ともに能力を発揮できるように配置する」の数値。この他「男女ともに能力に応じた昇進、昇格を行う」「男女ともに能力チャレンジ意欲を向上させるための教育・研修機会を充実する」の項目を別に設定をしていた。

問14 女性が結婚・出産、育児、介護による退職をせずに仕事を続けるためにはどのようにすればよいと考えますか。(複数回答)

女性が仕事を継続していくために必要なことについて、「3 保育施設(病児保育・学童保育等含む)など子育て支援サービスの充実」が16.6%、「1 (育児休業の取得を含む)パートナーが理解、家事・育児などをすること」が16.5%、「7 企業経営者や職場の理解」が12.6%、「8 育児・介護休業などの休暇制度の充実」がともに12.4%、「4 福祉施設など介護サービスの充実」が12.1%となっている。

どの選択肢も男女差はあまりないが、「7 企業経営者や職場の理解」が必要と考える割合は男性のほうが高く、「短時間正社員制度、フレックスタイム制度の導入」は女性が高くなっている。

【単純集計】



【男女別集計】

	女性		男性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 (育児休業の取得を含む)パートナーが理解、家事・育児などをすること	270	16.6%	196	16.4%	466	16.5%
2 パートナー以外の家族が理解、家事・育児などをすること	175	10.7%	126	10.6%	301	10.7%
3 保育施設(病児保育・学童保育等含む)など子育て支援サービスの充実	264	16.2%	205	17.2%	469	16.6%
4 福祉施設など介護サービスの充実	199	12.2%	142	11.9%	341	12.1%
5 短時間正社員制度、フレックスタイム制度の導入	170	10.4%	103	8.6%	273	9.7%
6 テレワーク制度の導入	94	5.8%	71	6.0%	165	5.8%
7 企業経営者や職場の理解	190	11.6%	164	13.8%	354	12.5%
8 育児・介護休業などの休暇制度の充実	207	12.7%	145	12.2%	352	12.5%
9 キャリアアップに向けた研修など職場における教育機会の充実	62	3.8%	40	3.4%	102	3.6%

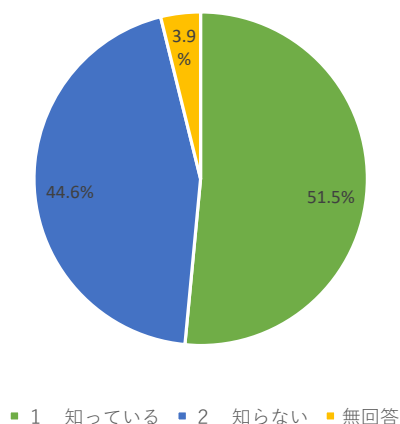
n = 1,631 1,192 2,823

5 暴力(DV・性暴力等)について

問 15 あなたは、配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力等を受ける「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について相談できる窓口(相談機関)を知っていますか。

ドメスティック・バイオレンス(DV)について相談できる窓口(相談機関)を知っている人は、**51.5%**と約半数の人が知っている。

問15 配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力等を受ける「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について相談できる窓口(相談機関)を知っていますか。



(単純集計・男女別集計)

	女性		男性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 知っている	216	50.3%	193	53.2%	409	51.6%
2 知らない	189	44.1%	166	45.7%	355	44.8%
3 無回答	24	5.6%	4	1.1%	28	3.5%
n=	429		363		792	

問 16 ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害に関して、あなたが直接被害を受けたり、身近に被害を受けた人がありますか(複数回答)

「最近の5年の間に被害を受けた」人は**14人**(前回11人)で**1.9%**(前回1.5%)、「過去に被害を受けた」人は**50人**(前回37人)で**6.6%**(前回5.0%)、「身近に被害を受けた人がある」人は**68人**(前回81人)で**9.0%**(前回10.9%)で各選択肢の割合は前回調査と比較して大きな変化はない。

(単純集計・男女別集計)

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 この最近5年の間に被害を受けた	10	2.5%	4	1.1%	14	1.9%	11	1.5%
2 この5年以内はないが、過去に被害を受けたことがある	39	9.6%	11	3.2%	50	6.6%	37	5.0%
3 身近に被害を受けた人がある	47	11.6%	21	6.0%	68	9.0%	81	10.9%
4 被害も受けたことがないし、身近にもいない	309	76.3%	313	89.7%	622	82.5%	616	82.7%
n=	405		349		754		745	

問16-1 問16で1. 2. 3. を回答したかたにおたずねします。その時にあなたは誰かに相談しましたか。(複数回答)

ドメスティック・バイオレンス(DV)に対する対応について、「8 どこ(だれ)にも相談しなかった」人は30.8%(前回25.9%)、「8 家族や親戚に相談した」人は21.4%(前回22.8%)、「9 友人、知人に相談した」人は17.0%(前回20.9%)となっており、相談した場合は身近な人への相談が高い傾向にある。

各選択肢の割合は、前回調査とほぼ変化はないが、相談しなかった人が微増し、身近な人への相談が微減している。

なお、コロナ禍のDV増加の対策として対して国が設置した相談窓口((DVナビ、DV相談+(プラス))の利用者は0%となっている。

(単純集計・男女別集計)

	女		男		計		前回(R2)		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1 警察に連絡・相談した	10	8.5%	2	4.8%	12	7.5%	10	6.3%	
2 法務局や人権擁護委員に相談した							2	1.3%	
3 県の相談機関に相談した	5	4.3%	2	4.8%	7	4.4%	8	5.1%	
4 市の相談機関に相談した	3	2.6%	2	4.8%	5	3.1%	8	5.1%	
5 弁護士、カウンセラー、被害者支援団体等に相談した	3	2.6%	0	0.0%	3	1.9%	7	4.4%	
6 医療関係者(医師・看護師など)に相談した	2	1.7%	3	7.1%	5	3.1%	6	3.8%	
7 学校関係者(教員等)や職場の上司に相談した	7	6.0%	2	4.8%	9	5.7%	2	1.3%	
8 家族や親戚に相談した	29	24.8%	5	11.9%	34	21.4%	36	22.8%	
9 友人、知人に相談した	20	17.1%	7	16.7%	27	17.0%	33	20.9%	
10 国の相談窓口(DVナビ、DV相談+(プラス))に相談した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%			
11 その他	5	4.3%	3	7.1%	8	5.0%	5	3.2%	
12 どこ(だれ)にも相談しなかった	33	28.2%	16	38.1%	49	30.8%	41	25.9%	
n=	117		42		159		158		

問16-2 問16-1で12を回答されたかたにおたずねします。どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

どこ(だれ)にも相談しなかった理由について、「その他」を除いた選択肢の中では、「3 相談してもむだだと思ったから」が18.3%(前回15.4%)、「11 相談するほどのことではないと思ったから」が12.7%(前回9.2%)、「6 自分ががまんさえすれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が10.3%(前回6.2%)となっている。

前回との変化として、前回2番目に多かった「1 どこ(だれ)に相談してよいのか、わからなかったから」、「2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「9 自分にも悪いところがあると思ったから」は回答者数はほぼ同じだが、割合は減っている。一方、「6 自分ががまんさえすれば、何とかこのままやっていけると思ったから」、「7 他人に知られると、これまでどおりのつき合いができなくなると思ったから」と、環境の変化を避ける人の割合は増加している。

(単純集計・男女別集計)

	女		男		計		前回(R2)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 どこ(だれ)に相談してよいのか、わからなかったから	4	5.2%	7	14.3%	11	8.7%	9	13.8%
2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	3	3.9%	2	4.1%	5	4.0%	5	7.7%
3 相談してもむだだと思ったから	13	16.9%	10	20.4%	23	18.3%	10	15.4%
4 相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	4	5.2%	1	2.0%	5	4.0%	2	3.1%
5 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	2	2.6%	0	0.0%	2	1.6%	2	3.1%
6 自分ががまんさえすれば、何とかこのままやっていけると思ったから	8	10.4%	5	10.2%	13	10.3%	4	6.2%
7 他人に知られると、これまでどおりのつき合いができなくなると思ったから	5	6.5%	2	4.1%	7	5.6%	1	1.5%
8 そのことについて思い出したくなかったから	3	3.9%	2	4.1%	5	4.0%	3	4.6%
9 自分にも悪いところがあると思ったから	4	5.2%	0	0.0%	4	3.2%	6	9.2%
10 相手の行為が愛情の表現だと思ったから	2	2.6%	0	0.0%	2	1.6%	3	4.6%
11 相談するほどのことではないと思ったから	9	11.7%	7	14.3%	16	12.7%	6	9.2%
12 その他	20	26.0%	13	26.5%	33	26.2%	14	21.5%
	n= 77		49		126		65	

問 17 あなたはこれまでに、性暴力(同意のない・対等でない・強要された性的行為)を受けたことがありますか(複数回答)

なんらかの性暴力を受けたことがある人は回答数の約1割で、男女別集計では、女性の回答数の約2割、男性の回答数の約1割であった。女性の性暴力被害のうち最も高かった被害は「3 身体的接触をとまう性暴力」被害6.6%であった。

(単純集計・男女別集計)

	女		男		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 言葉による性暴力にあった	15	4.1%	1	0.3%	16	2.4%
2 視覚による性暴力にあった(相手の裸等を見せられた等)	11	3.0%	0	0.0%	11	1.7%
3 身体的接触をとまう性暴力にあった	24	6.6%	1	0.3%	25	3.8%
4 性交を伴う性暴力にあった	10	2.7%	0	0.0%	10	1.5%
5 情報ツールを用いた性暴力にあった(ウェブ、スマートフォン等を使用して性的に嫌な経験をした等)	6	1.6%	0	0.0%	6	0.9%
6 被害にあったことはない	299	81.9%	298	99.3%	597	89.8%
n= 365 300 665						

問18 問17で1. 2. 3. 4.5を回答したかたにおたずねします。その時にあなたは誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。(複数回答)

性暴力(同意のない・対等でない・強要された性的行為)を受けたときの対応について、多い順に「10 どこ(だれ)にも相談しなかった」人は50.9%(女性49.0%、男性100%)、次いで「8 友人・知人に相談した」人は17.0%(女性17.6%、男性0%)、「7 家族や親戚に相談した」人は11.3%(女性11.8、男性0%)となっている。

女性のうちなんらかの相談をした人は親族や友人など身近な人に相談する傾向が高く、男性は誰にも相談していない。

(男女別集計)

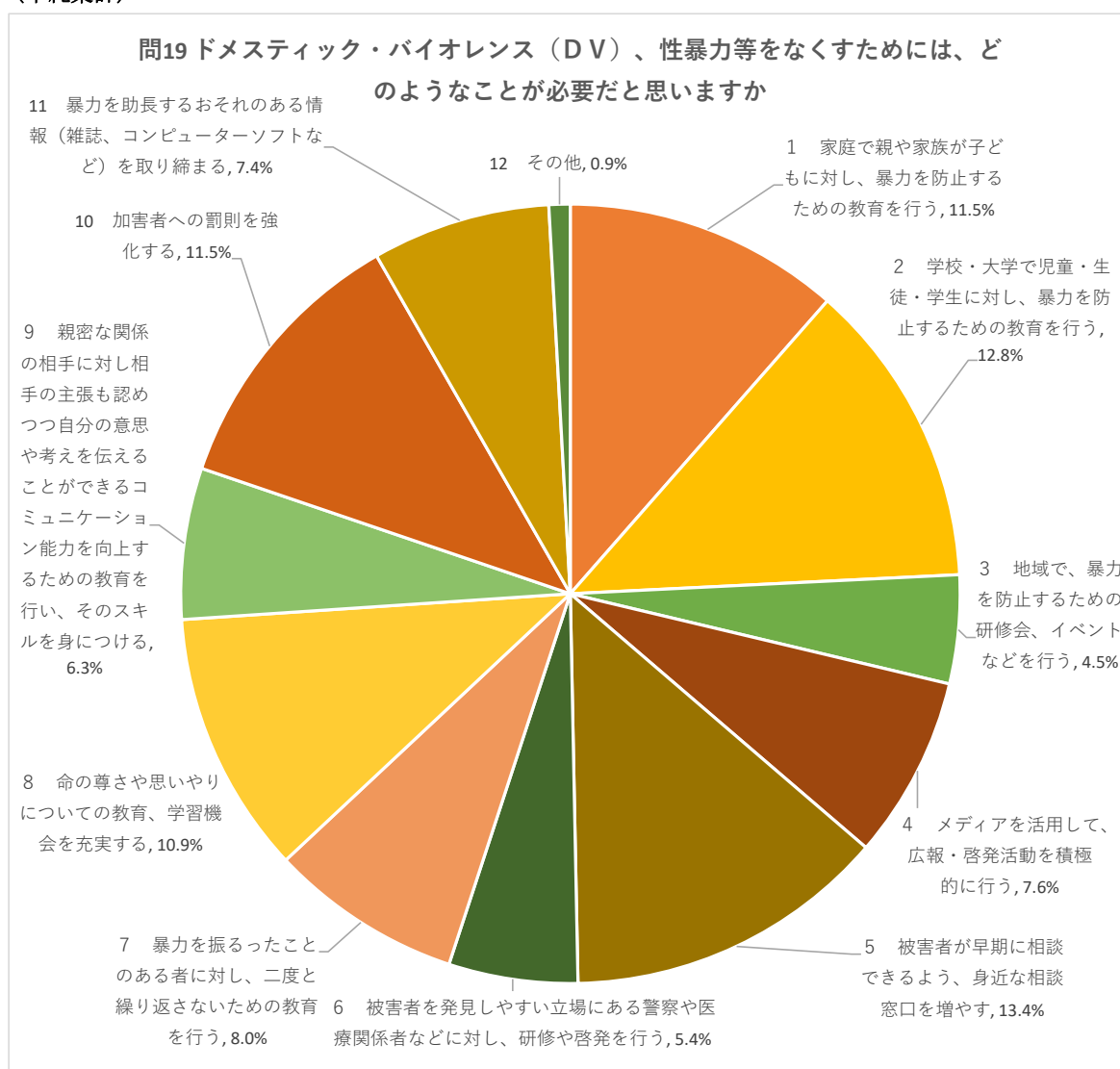
	女		男		総計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 「性暴力被害者支援センターとっとり(クローバーとっとり)」の専門相談窓口(いわゆるワンストップ支援センター)に相談した	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%
2 警察に連絡・相談した	3	5.9%	0	0.0%	3	5.7%
3 警察以外の公的な機関に相談した	2	3.9%	0	0.0%	2	3.8%
4 民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、民間シェルターなど)に相談した	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%
5 医療関係者(医師、看護師など)に相談した	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%
6 学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%
7 家族や親戚に相談した	6	11.8%	0	0.0%	6	11.3%
8 友人・知人に相談した	9	17.6%	0	0.0%	9	17.0%
9 その他	2	3.9%	0	0.0%	2	3.8%
10 どこ(だれ)にも相談しなかった	25	49.0%	2	100.0%	27	50.9%
n= 51 2 53						

問19 あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)、性暴力等をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

ドメスティック・バイオレンス(DV)、性暴力等をなくすためには必要なこととして多い順に、「5 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答した人が13.4%、次いで「2 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が12.8%、「1 家庭で親や家族が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」及び「10 加害者への罰則を強化する」が11.5%となっている。

最も割合の高かった「相談窓口の増設」はDVの深刻化を防ぐものであり、次に「未然に防止する教育」と「罰則の強化」による犯罪抑止の防止対策の割合が高くなっている。

(単純集計)



(男女別集計)

	女		男		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 家庭で親や家族が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	192	11.6%	141	11.3%	333	11.5%
2 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	204	12.3%	167	13.4%	371	12.8%
3 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	69	4.2%	62	5.0%	131	4.5%
4 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	124	7.5%	97	7.8%	221	7.6%
5 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	222	13.4%	166	13.3%	388	13.4%
6 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	92	5.6%	62	5.0%	154	5.3%
7 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	135	8.2%	96	7.7%	231	8.0%
8 命の尊さや思いやりについての教育、学習機会を充実する	193	11.7%	123	9.9%	316	10.9%
9 親密な関係の相手に対し相手の主張も認めつつ自分の意思等を伝えることができる能力を向上するための教育を行いそのスキルを身につける	103	6.2%	79	6.3%	182	6.3%
10 加害者への罰則を強化する	186	11.2%	148	11.9%	334	11.5%
11 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	126	7.6%	89	7.1%	215	7.4%
12 その他	8	0.5%	18	1.4%	26	0.9%
n=	1,654		1,248		2,902	